

2022/2023シーズン

# スキー場傷害報告書

2023（令和5）年2月1日～2月28日



全国スキー安全対策協議会

## 目 次

はじめに	2
1. 協力スキー場および調査期間	3
2. 用具の分類	3
3. 受傷者数および集計・分析の対象	3
4. スキーとスノーボードの受傷者割合	6
5. 用具別の受傷者割合	6
6. リフト等の輸送人員	7
7. 受傷率	8
8. スキーおよびスノーボード受傷率	9
9. 受傷時間帯	15
10. 天候	15
11. 性別	17
12. 年齢	17
13. 技能	18
14. 受傷場所	18
15. 受傷原因	20
16. 傷害の部位と種類	22
17. 傷害程度	25
18. 頭を強く打った疑い	25
19. ヘルメットの着用状況	26
20. 保険の加入状況	27
21. 受傷時の行動	28
22. 受傷時のスピード	29
23. 雪面状況	29
24. 雪質	30
資料1 2022/2023 シーズン スキー場内および管理区域外での死亡事故一覧表 (2023年3月31日現在)	31
資料2 過去20年間のスノースポーツ死亡者数推移	32
資料3 2023年2月スキー場傷害調査用紙	33
資料4 全国統一スキー場標識マーク等色刷一覧表	34

## はじめに

このスキー場傷害報告書は、毎年全国スキー安全対策協議会より協力を依頼したスキー場の2月中のデータをもとに作成しています。

本調査は、休業中の1スキー場を除き、46スキー場の協力を得て実施することができました。各スキー場では、リフト・ゴンドラ等の新設・運休・廃止等シーズンによって状況が異なることがあるので、調査対象が同じであっても、その結果が必ずしも同じとは言えないかもしれません。しかし、そのような状況を考慮しても、我が国において、本調査のような大規模かつ長期にわたる経年的統計データは他に見られないことから、本調査には大切な意義があると考えられます。

2022/2023 シーズン（以下22/23と略）の調査結果の特徴として下記2項目が挙げられます。

### 1. 受傷率の増加傾向

過去10年間の、スキー・スノーボード・ソリその他を合わせた受傷率(%)の推移をみると、17/18シーズンは過去10年間で最高値の0.0116を記録しましたが、翌年の18/19シーズンは0.0093に減少し、その後2シーズン連続して増加、21/22シーズンは過去10シーズンで最低値の0.0091を記録しました。しかし、22/23シーズンはコロナ禍が落ち着きスキー場に賑わいが戻ったせいから、0.0101とやや上昇しました。

種別ごとの受傷率をみると、スキーは17/18シーズンに最低値の0.0072を記録した翌シーズンに一気に上昇し、その後昨シーズンまで連続して減少が続き、22/23シーズンは0.0082と4シーズンぶりに上昇しました。スノーボードは、19/20シーズンに過去最低値の0.0105を記録したあと、乱高下を繰り返して、22/23シーズンは0.0119となりました。

旅客輸送人員が3シーズン連続で減少していましたが、昨シーズンから増加に転じたことから、スキーやスノーボードの受傷率の上昇には引き続き警戒が必要です。

### 2. ヘルメット着用率の増加

ヘルメット着用率は19/20シーズンまで順調に増加していましたが、20/21シーズンに一気に減少に転じてしまいました。コロナ渦中の3シーズンを経て徐々に持ち直し、今シーズンはスキー(48.8%)・スノーボード(26.5%)とも過去10年間で最高を更新しました。主なスキー外傷の部位や種類の傾向は例年と変わらず、頭部外傷がスキーで5位、スノーボードで4位と高位を占めることや、欧米のヘルメット着用率の約8割には到底及んでいないことから、ヘルメット着用のさらなる啓蒙活動が望まれます。

本調査の目的はスキー場の傷害調査であることから、スキー場より報告された調査票に含まれる傷害以外の急病等の疾病については、傷害発生率などの分析に影響するので集計から除いています。その結果、傷害報告数と、本報告書の傷害件数が異なる場合があることをご了承願います。なお、調査項目については、記入に要する労力や経費削減の観点から引き続き精査しております。

本報告書が、スキー場のリスクマネジメント・スキー学校等における安全指導の参考資料等として活用され、安全で楽しいスノースポーツ発展の一助となることを願っています。

本調査にご協力いただいた、受傷したスノースポーツ愛好者の方々、スキーパトロール隊や診療所等スキー場関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2023（令和5）年6月

全国スキー安全対策協議会  
調査委員 富 樫 泰 一

## 1. 協力スキー場および調査期間

2023年2月1日から2月28日の1ヶ月間、全国46スキー場から報告があったデータをもとに集計・分析しました。協力スキー場及び受傷者数については表1、表2に示しました。

なお、志賀高原スキー場については、志賀高原エリアの8スキー場を総合したものです。シーズンによって協力スキー場が異なる場合があります。

## 2. 用具の分類

用具は、2011/2012シーズンの調査用紙より次のように分類しました。

### 1) スキー

- ① アルペンスキー（従来のノーマルスキー、カービングスキー、ファンスキーやファットスキー、モーグルスキー、オールランドスキー等を含む）
- ② スキーボード（スキー板の長さ100cm未満のもの）
- ③ テレマークスキー
- ④ クロスカントリースキー
- ⑤ その他のスキー

### 2) スノーボード

- ① フリースタイルスノーボード
- ② アルペンスノーボード
- ③ その他のスノーボード

### 3) ソリ

- ① 子供用ソリ
- ② 腰掛ソリ（サドル付スノースケート等）
- ③ 立ち乗りソリ（スノースケート等）
- ④ その他のソリ（チューブを含む）

### 4) その他

## 3. 受傷者数および集計・分析の対象

46スキー場から送付されてきた調査票のうち、持病や体調不良などスノースポーツ傷害ではないと思われるもの34件（駐車場やレストハウス等での事故、体調不良、持病の悪化、内科系疾患等）を除き2,885件を分析の対象としました。その受傷者内訳は、スキー1,191（表1）、スノーボード1,669件（表2）、ソリその他が25件（表2）でした。

なお、各項目における集計・分析は原則として無記入（欠損値）を除いて行いました。

表 1. 用具別受傷者数 (スキー)

番号	スキー場	受傷者合計	スキー					スキー小計
			アルペンスキー	スキーボード(100cm未満)	テレマークスキー	クロスカントリースキー	その他のスキー	
1	ニセコ東急グラン・ヒラフ	56	33	0	0	0	0	33
2	朝里川温泉スキー場	6	6	0	0	0	0	6
3	サッポロテイネススキー場	30	21	0	0	0	1	22
4	札幌国際スキー場	31	12	0	0	0	0	12
5	ルスツリゾートスキー場	116	56	0	0	0	0	56
6	富良野スキー場	45	29	0	0	0	0	29
7	大鱈温泉スキー場	8	8	0	0	0	0	8
8	安比高原スキー場	47	28	0	0	0	0	28
9	みやぎ蔵王白石スキー場	6	3	0	0	0	0	3
10	みやぎ蔵王えぼしリゾート	18	9	0	0	0	0	9
11	猪苗代スキー場	93	37	0	0	0	1	38
12	星野リゾート 猫魔スキー場	8	2	0	0	0	0	2
13	星野リゾート アルツ磐梯	61	11	2	0	0	0	13
14	会津高原たかつえスキー場	24	7	0	0	0	0	7
15	たざわ湖スキー場	28	18	0	0	0	1	19
16	蔵王温泉スキー場	130	97	1	0	1	2	101
17	苗場スキー場	80	46	0	0	0	2	48
18	石打丸山スキー場	41	11	0	0	0	1	12
19	舞子スノーリゾート	118	27	0	0	0	0	27
20	上越国際スキー場	98	27	0	1	0	1	29
21	六日町八海山スキー場	4	2	0	0	0	0	2
22	斑尾高原スキー場	87	22	0	0	0	0	22
23	野沢温泉スキー場	200	84	0	0	0	0	84
24	志賀高原地区	140	87	1	1	0	0	89
25	白馬五竜スキー場	128	52	0	0	0	1	53
26	白馬八方尾根スキー場	154	98	5	0	0	2	105
27	白馬岩岳スノーフィールド	81	32	1	0	0	0	33
28	樽池高原スキー場	108	44	0	0	0	3	47
29	立山山麓スキー場	22	10	0	0	0	0	10
30	白山一里野温泉スキー場	28	9	0	0	0	0	9
31	草津温泉スキー場	14	5	0	0	0	0	5
32	スノーパーク尾瀬戸倉	5	0	0	0	0	0	0
33	万座温泉スキー場	13	9	0	0	0	0	9
34	ハンターマウンテン塩原	132	27	1	0	0	1	29
35	ダイナランド	246	45	1	0	0	0	46
36	スキージャム勝山	73	17	1	0	0	1	19
37	箱館山スキー場	14	6	0	0	0	0	6
38	ハチ北高原スキー場	92	20	0	0	0	1	21
39	びわ湖パレイスキー場	82	23	0	0	0	0	23
40	奥神鍋スキー場	1	1	0	0	0	0	1
41	ハチ高原スキー場	54	23	0	0	0	2	25
42	だいせんホワイトリゾート	54	30	0	0	0	1	31
43	恐羅漢スノーパーク	62	10	0	0	0	0	10
44	めがひらスキー場	25	5	0	0	0	1	6
45	ユートピアサイオト	9	1	0	0	0	0	1
46	久万スキーランド	13	3	0	0	0	0	3
	合計	2,885	1,153	13	2	1	22	1191

表2. 用具別受傷者数（スノーボード・ソリ・その他）

番号	スキー場	(F) 受傷者 合計	(H) スノーボード				(I=ソリ小計+その他)(人) ソリ					その他
			フリー スタイル スノー ボード	アルペ ン ス ノー ボード	その 他 の ス ノー ボード	スノー ボード 小計	子ども 用ソリ	腰掛ソ リ	立ち乗 りソリ	その 他 の ソリ	ソリ 小計	
1	ニセコ東急グラン・ヒラフ	56	23	0	0	23	0	0	0	0	0	0
2	朝里川温泉スキー場	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	サップロテイネススキー場	30	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
4	札幌国際スキー場	31	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0
5	ルスツリゾートスキー場	116	59	0	1	60	0	0	0	0	0	0
6	富良野スキー場	45	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0
7	大鱈温泉スキー場	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	安比高原スキー場	47	18	0	0	18	0	0	1	0	1	0
9	みやぎ蔵王白石スキー場	6	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
10	みやぎ蔵王えぼしリゾート	18	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0
11	猪苗代スキー場	93	53	0	1	54	1	0	0	0	1	0
12	星野リゾート 猫魔スキー場	8	4	1	0	5	0	1	0	0	1	0
13	星野リゾート アルツ磐梯	61	47	1	0	48	0	0	0	0	0	0
14	会津高原たかつえスキー場	24	17	0	0	17	0	0	0	0	0	0
15	たざわ湖スキー場	28	8	1	0	9	0	0	0	0	0	0
16	蔵王温泉スキー場	130	28	0	1	29	0	0	0	0	0	0
17	苗場スキー場	80	31	1	0	32	0	0	0	0	0	0
18	石打丸山スキー場	41	28	0	0	28	1	0	0	0	1	0
19	舞子スノーリゾート	118	90	1	0	91	0	0	0	0	0	0
20	上越国際スキー場	98	69	0	0	69	0	0	0	0	0	0
21	六日町八海山スキー場	4	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
22	斑尾高原スキー場	87	65	0	0	65	0	0	0	0	0	0
23	野沢温泉スキー場	200	110	1	1	112	2	0	2	0	4	0
24	志賀高原地区	140	48	1	0	49	0	1	0	1	2	0
25	白馬五竜スキー場	128	73	2	0	75	0	0	0	0	0	0
26	白馬八方尾根スキー場	154	48	1	0	49	0	0	0	0	0	0
27	白馬岩岳スノーフィールド	81	46	0	0	46	1	0	1	0	2	0
28	栂池高原スキー場	108	58	0	2	60	0	0	1	0	1	0
29	立山山麓スキー場	22	12	0	0	12	0	0	0	0	0	0
30	白山一里野温泉スキー場	28	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0
31	草津温泉スキー場	14	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0
32	スノーパーク尾瀬戸倉	5	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0
33	万座温泉スキー場	13	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
34	ハンターマウンテン塩原	132	102	0	0	102	0	0	0	1	1	0
35	ダイナランド	246	198	1	0	199	0	0	1	0	1	0
36	スキージャム勝山	73	54	0	0	54	0	0	0	0	0	0
37	箱館山スキー場	14	7	0	1	8	0	0	0	0	0	0
38	ハチ北高原スキー場	92	71	0	0	71	0	0	0	0	0	0
39	びわ湖バレイスキー場	82	50	0	0	50	9	0	0	0	9	0
40	奥神鍋スキー場	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	ハチ高原スキー場	54	29	0	0	29	0	0	0	0	0	0
42	だいせんホワイトリゾート	54	22	0	0	22	1	0	0	0	1	0
43	恐羅漢スノーパーク	62	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	めがひらスキー場	25	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0
45	ユートピアサイオト	9	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
46	久万スキーランド	13	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0
	合計	2,885	1,651	11	7	1,669	15	2	6	2	25	0

#### 4. スキーとスノーボードの受傷者割合

図1は過去5年間のスキー及びスノーボードの受傷者の割合を示したものです（ソリ等その他を除いて集計）。受傷者割合について18/19と19/20シーズンは大きな変化がなかったものの、20/21シーズンはスキー33.5%、スノーボード66.5%とスキーが減少し反対にスノーボードが増加しました。21/22シーズンは、スキー37.9%スノーボード62.1%と若干戻り、22/23シーズンは19/20シーズンに近い比率に戻りました。しかしその原因については不明です。

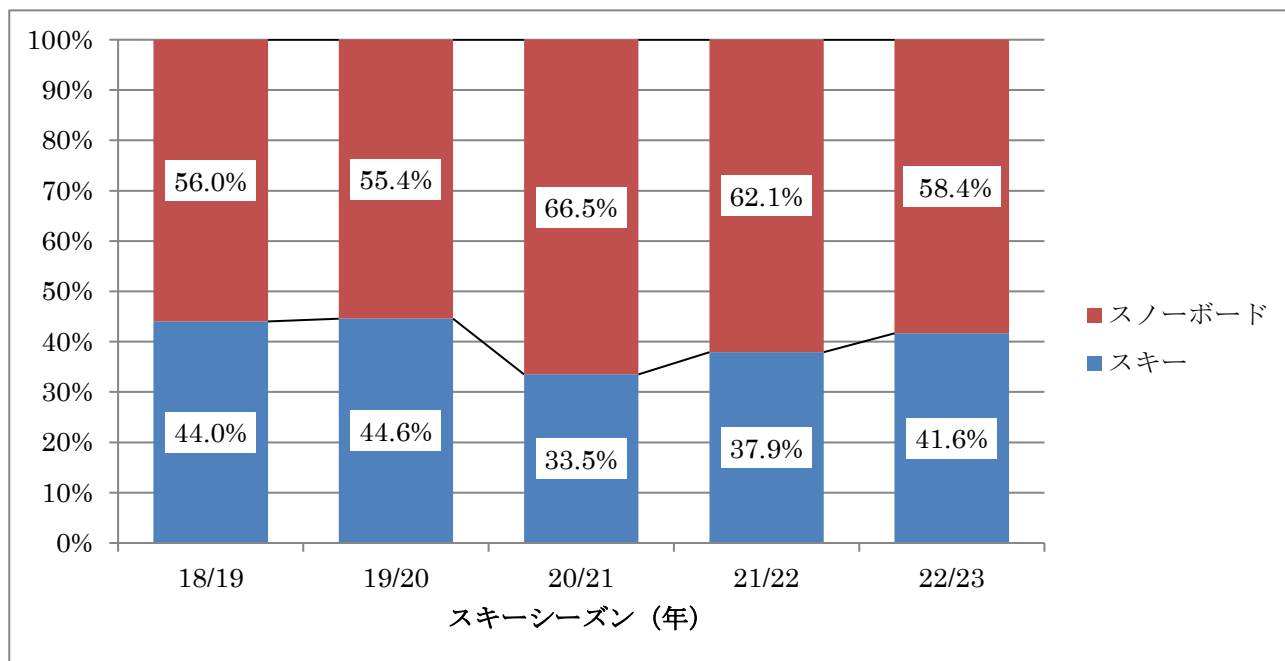


図1. スキーとスノーボードの受傷者割合の推移

#### 5. 用具別の受傷者割合

図2は受傷者の使用用具の割合です。22/23シーズンは昨シーズンと比べ、アルペンスキーが3.8ポイント増加、フリースタイルスノーボードが4.0ポイント減少しました。

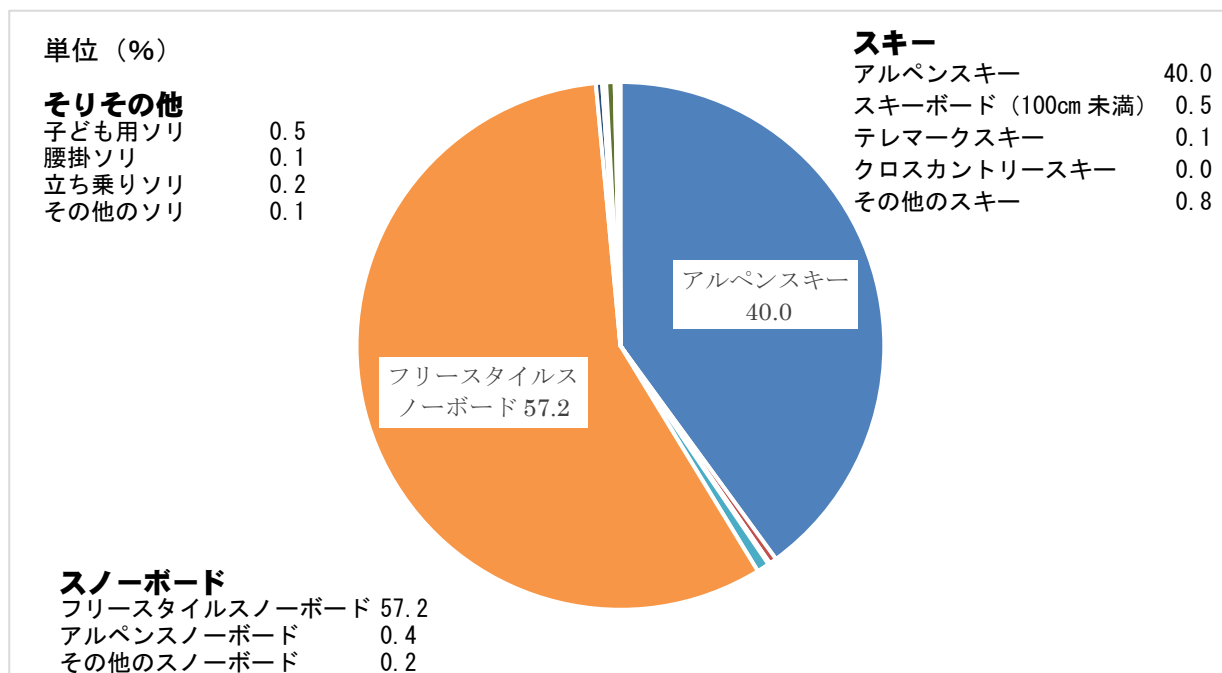


図2. 用具別受傷者の割合

表3は、用具別受傷者について過去5年間の推移を表したものです。22/23シーズンの受傷者数は前シーズンに比べて、スキー（アルペン）で3.8ポイント増加し、スノーボード（フリースタイル）で3.9ポイント減少しました。

表3. 用具別受傷者数の推移（人）

調査年	スキー					スノーボード			ソリ その他	計
	アルペン	スキー ボード	テレマー ク	クロカン	その他	フリース スタイル	アルペン	その他		
2019年	1,531	26	2	3	26	1,985	18	17	16	3,624
	42.2%	0.7%	0.1%	0.1%	0.7%	54.8%	0.5%	0.5%	0.4%	100.0%
2020年	1,137	11	4	0	18	1,440	10	8	8	2,636
	43.1%	0.4%	0.2%	0.0%	0.7%	54.6%	0.4%	0.3%	0.3%	100.0%
2021年	645	23	6	2	15	1,362	9	1	12	2,075
	31.1%	1.1%	0.3%	0.1%	0.7%	65.6%	0.4%	0.0%	0.6%	100.0%
2022年	751	19	2	0	8	1,267	5	4	17	2,073
	36.2%	0.9%	0.1%	0.0%	0.4%	61.1%	0.2%	0.2%	0.8%	100.0%
2023年	1153	13	2	1	22	1651	11	7	25	2885
	40.0%	0.5%	0.1%	0.0%	0.8%	57.2%	0.4%	0.2%	0.9%	100.0%

## 6. リフト等の輸送人員

スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員は、各スキー場から報告があった2月の輸送延べ人員とスキーヤーとスノーボーダーの入り込みの比率から推計したものです。

表4はスキーヤーとスノーボーダーの過去5年間の推計輸送人員の推移です。2023年2月の輸送延べ人員は、前年度と比べて33.25ポイント増加しました。内訳はスキーヤーが31.40ポイント、スノーボーダーが35.22増加しました。総輸送人員は2019年から2021年の3シーズン連続で減少していましたが、昨シーズン増加に転じ、2023シーズンはコロナ禍前の2019シーズンに迫るまで増加しました。以前のスキー場の賑わいが戻ってくることを期待しています。

表4. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移（人）

調査年 (2月)	スキーヤー	対前年比	スノーボーダー	対前年比	総輸送人員	対前年比
2019年	17,152,397	-7.06%	13,630,601	0.42%	30,782,998	-3.89%
2020年	14,529,151	-15.29%	12,223,262	-10.32%	26,757,377	-13.08%
2021年	10,088,938	-30.56%	9,851,985	-19.40%	19,945,348	-25.46%
2022年	11,106,732	10.09%	10,369,900	5.26%	21,476,632	7.68%
2023年	14,594,565	31.40%	14,022,229	35.22%	28,616,794	33.25%

※ 調査年により協力スキー場数に変動があります。



図3はスキーヤーとスノーボーダーの過去5年間の推計輸送人員の割合です。22/23シーズンのスキーヤー・スノーボーダー比率は、スキー51.0%、スノーボード49.0%でした。

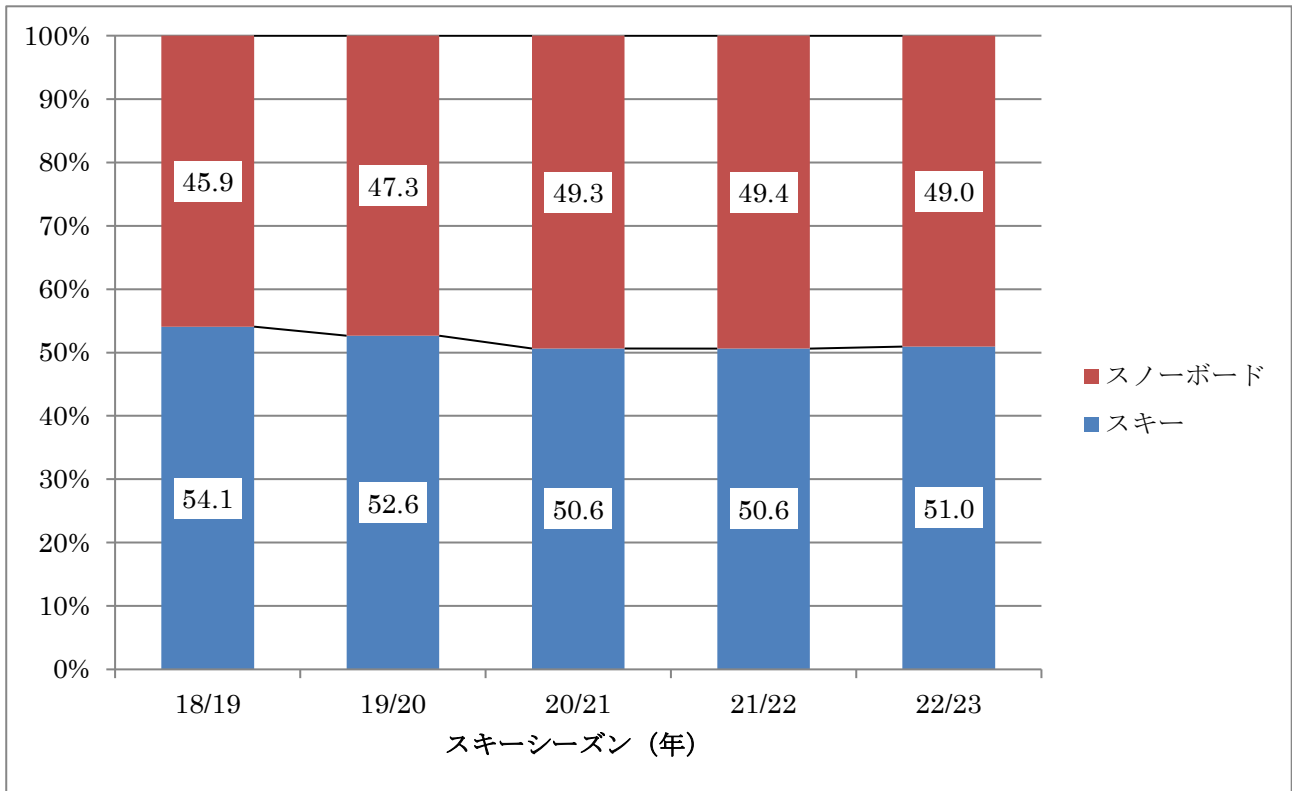


図3. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合の推移

## 7. 受傷率

過去10年間の、スキー・スノーボード・ソリその他を合わせた受傷率(%)の推移を図4に示しました。17/18シーズンは過去10年間で最高値の0.0116を示しましたが、翌年の18/19シーズンは0.0093に減少し、その後2シーズン連続して増加していましたが、21/22シーズンは過去10シーズンで最低値の0.0091を記録しました。22/23シーズンはスキー場に賑わいが戻ったせいか、0.0101とやや上昇しました。

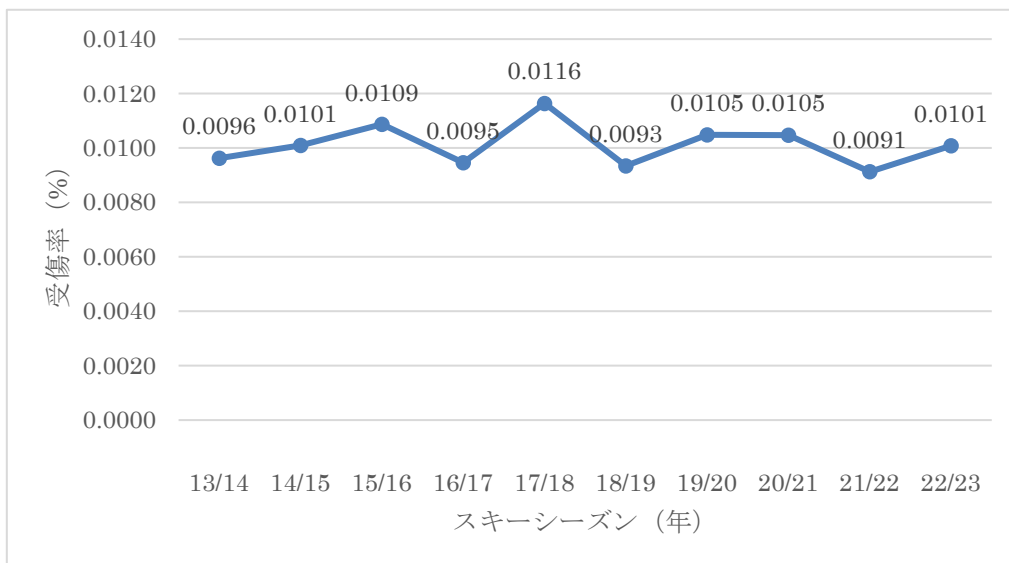


図4. 過去10年間の受傷率の推移

## 8. スキーおよびスノーボード受傷率

図 5-1 に過去 10 年間のスキー及びスノーボードの受傷率 (%) の推移を示しました。

スキーの受傷率は、17/18 シーズンに最低値の 0.0072 を記録した翌シーズンに一気に上昇し、その後昨シーズンまで連続して減少が続いていましたが、22/23 シーズンは 0.0082 と 4 シーズンぶりに上昇しました。スノーボードの受傷率は、19/20 シーズンに過去最低値の 0.0105 を記録し、乱高下を繰り返し、22/23 シーズンは 0.0119 となりました。

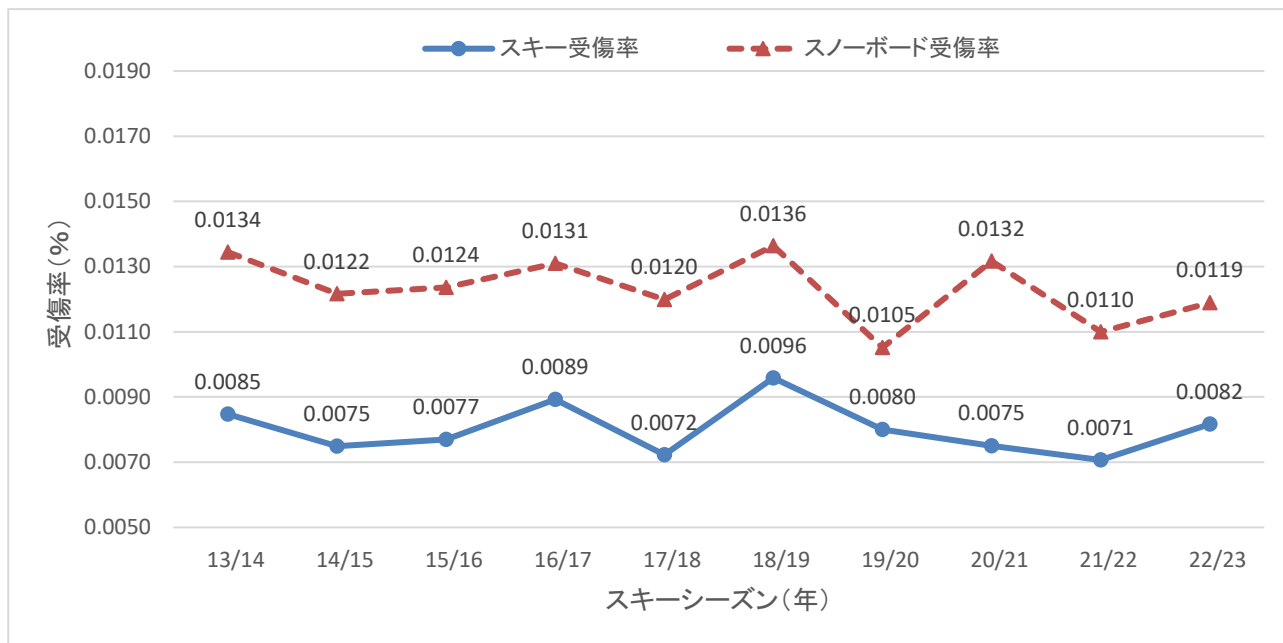


図 5-1. スキー及びスノーボード受傷率の推移

図 5-2 に、過去 23 年間のスキー及びスノーボードの受傷率 (%) の推移を示しました。スノーボードの受傷率は明らかな減少傾向 (-0.0002%/年) を示しているものの、スキーはほぼ横ばいで微増傾向(受傷率の改善が見られない)であることから、新たな対策が必要であることがうかがえます。

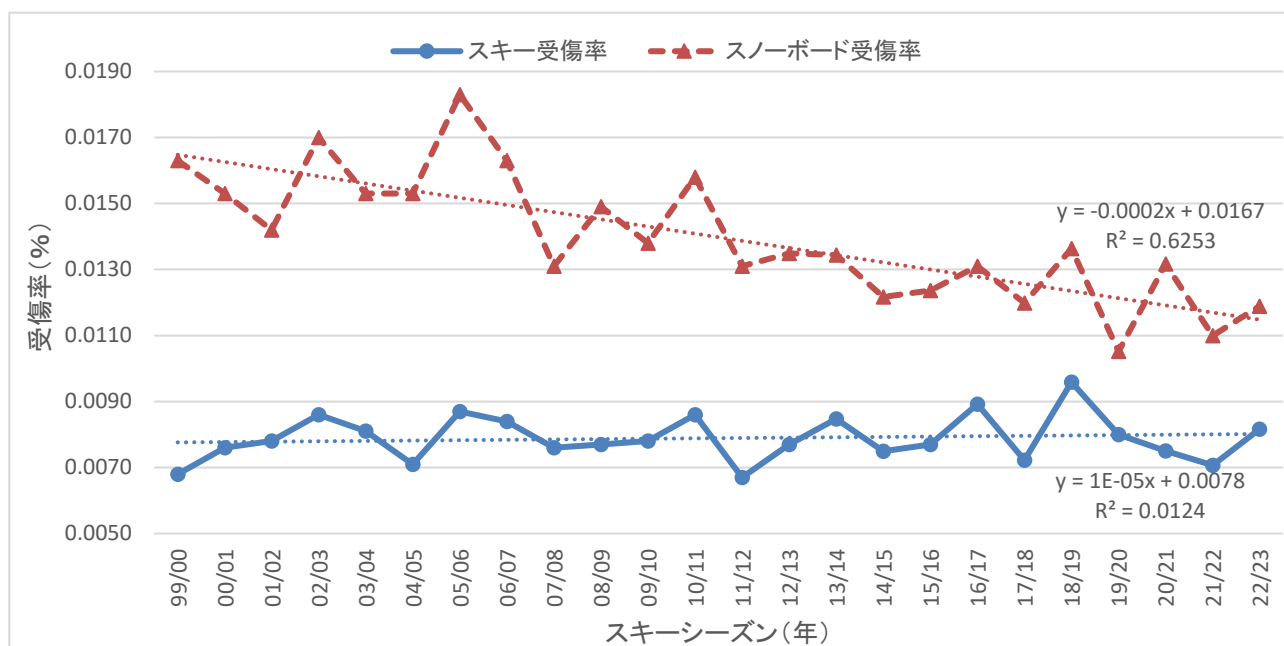


図 5-2. スキー・スノーボード受傷率の推移 (過去 23 年間)

図 5-3 は、輸送人員を横軸に、傷害者数を縦軸にプロット・直線回帰分析したものです。直線回帰寄与率 ( $R^2$ ) より、受傷者数の変動は輸送人員の変動から、スキーヤーで 66.0%，スノーボーダーで 44.1% 説明できることを表しています。回帰式より、スキーでは輸送人員 100 万人あたり傷害発生数 72 人、スノーボードでは同じく 132 人となり、スノーボードはスキーに比べ約 1.8 倍の傷害発生数が推計されます。尚、赤（スノーボード）の破線で囲まれたスキー場は、直線回帰式から大きく外れており、スキー場特有の問題点を抱えているか、特別な対策が必要なスキー場と考えられます。

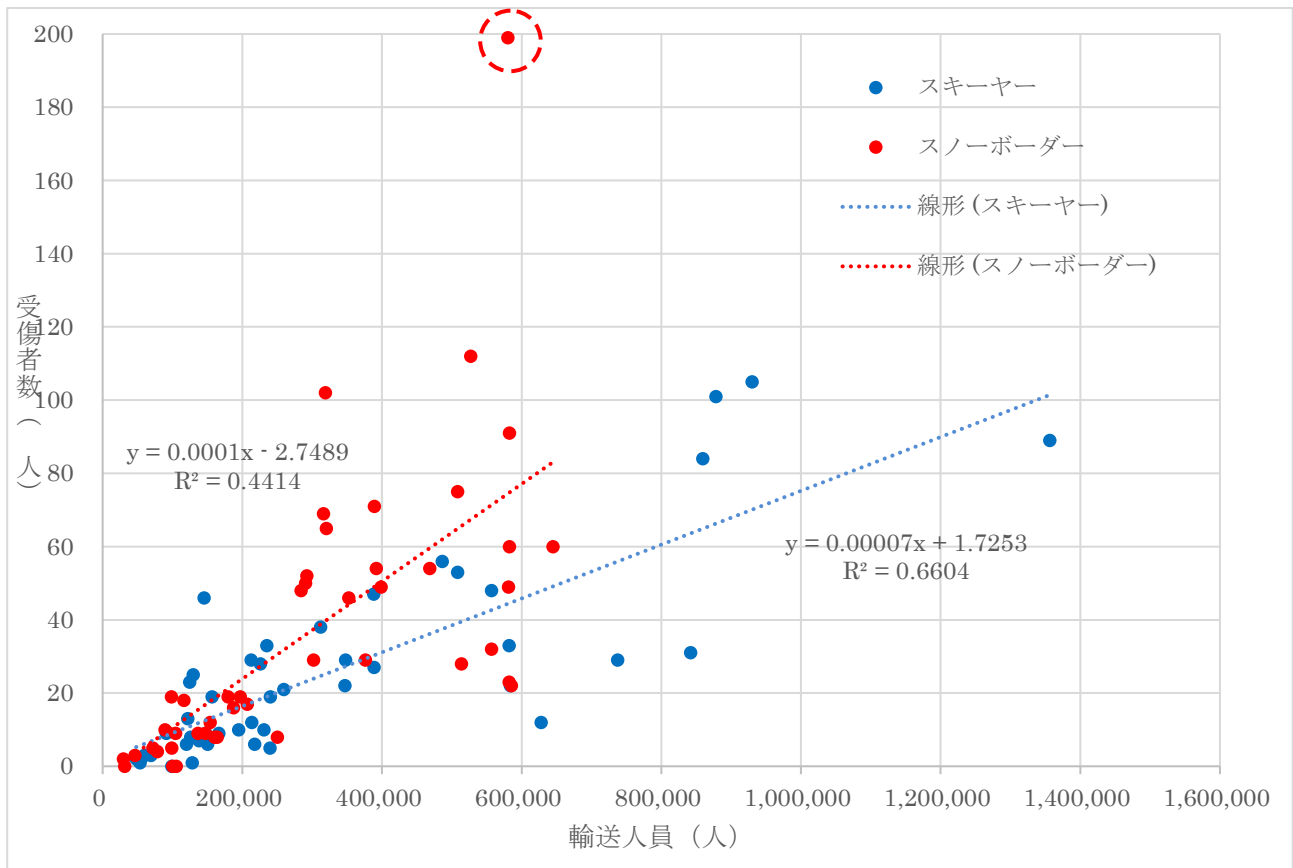


図 5-3. 輸送人員と傷害者数

本報告書では、受傷率をリフト・ゴンドラ等の輸送延べ人員に対する受傷者数の割合として計算しています。例えば受傷率 0.010% とは、輸送人員 1 万人あたり受傷者 1 人を指し、10 万人あたりでは 10 人、100 万人あたりでは 100 人となります。スキー場来場者は 1 日平均 10 回リフトやゴンドラを利用すると一般的に言われてきましたが、その根拠資料を得るため、19/20 シーズンに 8 スキー場の輸送人員と来場人員数の提供を得て、平均乗車回数を算出しました。その結果、平均乗車回数は 9.7 回/来場者となり、「1 日平均 10 回」は妥当な数値であることが確かめられました。従って本報告書の受傷率を来場者数に対する受傷率に読み替える場合は、10 倍すれば良いことがわかります。

スキー受傷率は、スキーヤー推計輸送人員に対するスキー受傷者数の割合、スノーボード受傷率は、スノーボーダー推計輸送人員に対するスノーボード受傷者数の割合を示したものです。

なお、提出された集計表に書かれた傷害件数と調査用紙（個票）の数が一致しないスキー場やケガ以外の疾病などが含まれている場合があるので、受傷率の計算は可能な限り実際の傷害件数を採用しました。したがって、スキー場から報告された傷害件数と本報告書の傷害件数とが異なる場合がありますのでご了承ください。

表5は輸送人員，入り込み比率，及びスキー・スノーボード別推計輸送人員です。

各スキー場の受傷者数と受傷率は，表6に示しました。受傷率は，総輸送人員に対する受傷者数の割合を示したものです。

表7は，スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移を示したものです。

表 5. 輸送人員, 入り込み比率及びブスキー・スノーボード別推計輸送人員

番号	スキー場	(A)	(B)		(C)	(D=AxB)	(E=AxC)
		輸送人員(人) 2023年2月	入り込み比率(%)		推計輸送人員(人)	スキーヤー	ボーダー
			スキーヤー	ボーダー			
1	ニセコ東急グラン・ヒラフ	1,164,013	50	50	582,007	582,007	
2	朝里川温泉スキー場	250,391	60	40	150,235	100,156	
3	サッポロテイネススキー場	833,711	70	30	583,598	250,113	
4	札幌国際スキー場	409,953	52	48	213,176	196,777	
5	ルスツリゾートスキー場	1,130,671	43	57	486,189	644,482	
6	富良野スキー場	535,137	65	35	347,839	187,298	
7	大鱈温泉スキー場	157,467	80	20	125,974	31,493	
8	安比高原スキー場	342,134	66	34	225,808	116,326	
9	みやぎ蔵王白石スキー場	114,870	60	40	68,922	45,948	
10	みやぎ蔵王えぼしリゾート	227,000	40	60	90,800	136,200	
11	猪苗代スキー場	780,000	40	60	312,000	468,000	
12	星野リゾート 猫魔スキー場	119,783	40	60	47,913	71,870	
13	星野リゾート アルツ磐梯	405,709	30	70	121,713	283,996	
14	会津高原たかつえスキー場	344,551	40	60	137,820	206,731	
15	たざわ湖スキー場	261,178	60	40	156,707	104,471	
16	蔵王温泉スキー場	1,254,000	70	30	877,800	376,200	
17	苗場スキー場	1,113,602	50	50	556,801	556,801	
18	石打丸山スキー場	1,141,062	55	45	627,584	513,478	
19	舞子スノーリゾート	970,887	40	60	388,355	582,532	
20	上越国際スキー場	1,053,431	70	30	737,402	316,029	
21	六日町八海山スキー場	84,110	65	35	54,672	29,439	
22	斑尾高原スキー場	666,712	52	48	346,690	320,022	
23	野沢温泉スキー場	1,386,116	62	38	859,392	526,724	
24	志賀高原地区	1,937,194	70	30	1,356,036	581,158	
25	白馬五竜スキー場	1,015,827	50	50	507,914	507,914	
26	白馬八方尾根スキー場	1,328,319	70	30	929,823	398,496	
27	白馬岩岳スノーフィールド	587,229	40	60	234,892	352,337	
28	樽池高原スキー場	970,384	40	60	388,154	582,230	
29	立山山麓スキー場	384,375	60	40	230,625	153,750	
30	白山一里野温泉スキー場	245,381	60	40	147,229	98,152	
31	草津温泉スキー場	386,572	62	38	239,675	146,897	
32	スノーパーク尾瀬戸倉	197,324	50	50	98,662	98,662	
33	万座温泉スキー場	244,611	68	32	166,335	78,276	
34	ハンターマウンテン塩原	531,559	40	60	212,624	318,935	
35	ダイナランド	725,240	20	80	145,048	580,192	
36	スキージャム勝山	631,991	38	62	240,157	391,834	
37	箱館山スキー場	381,247	57	43	217,311	163,936	
38	ハチ北高原スキー場	648,534	40	60	259,414	389,120	
39	びわ湖バレイスキー場	415,000	30	70	124,500	290,500	
40	奥神鍋スキー場	233,226	55	45	128,274	104,952	
41	ハチ高原スキー場	431,105	30	70	129,332	301,774	
42	だいせんホワイトリゾート	1,426,914	59	41	841,879	585,035	
43	恐羅漢スノーパーク	486,840	40	60	194,736	292,104	
44	めがひらスキー場	299,191	40	60	119,676	179,515	
45	ユートピアサイオト	213,610	25	75	53,403	160,208	
46	久万スキーランド	148,633	40	60	59,453	89,180	
	合 計	28,616,794	51	49	14,582,123	14,034,671	

表 6. 受傷率

番号	スキー場	(F)	(G)	(H)	(I)	(F/Ax100)	(G/Dx100)	(H/Ex100)
		受傷者数(人)				受傷率(%)		
		合計	スキーヤー	ボーダー	その他	合計	スキーヤー	ボーダー
1	ニセコ東急グラン・ヒラフ	56	33	23	0	0.0048	0.0057	0.0040
2	朝里川温泉スキー場	6	6	0	0	0.0024	0.0040	0.0000
3	サッポロテイネススキー場	30	22	8	0	0.0036	0.0038	0.0032
4	札幌国際スキー場	31	12	19	0	0.0076	0.0056	0.0097
5	ルスツリゾートスキー場	116	56	60	0	0.0103	0.0115	0.0093
6	富良野スキー場	45	29	16	0	0.0084	0.0083	0.0085
7	大鱈温泉スキー場	8	8	0	0	0.0051	0.0064	0.0000
8	安比高原スキー場	47	28	18	1	0.0137	0.0124	0.0155
9	みやぎ蔵王白石スキー場	6	3	3	0	0.0052	0.0044	0.0065
10	みやぎ蔵王えぼしリゾート	18	9	9	0	0.0079	0.0099	0.0066
11	猪苗代スキー場	93	38	54	1	0.0119	0.0122	0.0115
12	星野リゾート 猫魔スキー場	8	2	5	1	0.0067	0.0042	0.0070
13	星野リゾート アルツ磐梯	61	13	48	0	0.0150	0.0107	0.0169
14	会津高原たかつえスキー場	24	7	17	0	0.0070	0.0051	0.0082
15	たざわ湖スキー場	28	19	9	0	0.0107	0.0121	0.0086
16	蔵王温泉スキー場	130	101	29	0	0.0104	0.0115	0.0077
17	苗場スキー場	80	48	32	0	0.0072	0.0086	0.0057
18	石打丸山スキー場	41	12	28	1	0.0036	0.0019	0.0055
19	舞子スノーリゾート	118	27	91	0	0.0122	0.0070	0.0156
20	上越国際スキー場	98	29	69	0	0.0093	0.0039	0.0218
21	六日町八海山スキー場	4	2	2	0	0.0048	0.0037	0.0068
22	斑尾高原スキー場	87	22	65	0	0.0130	0.0063	0.0203
23	野沢温泉スキー場	200	84	112	4	0.0144	0.0098	0.0213
24	志賀高原地区	140	89	49	2	0.0072	0.0066	0.0084
25	白馬五竜スキー場	128	53	75	0	0.0126	0.0104	0.0148
26	白馬八方尾根スキー場	154	105	49	0	0.0116	0.0113	0.0123
27	白馬岩岳スノーフィールド	81	33	46	2	0.0138	0.0140	0.0131
28	樽池高原スキー場	108	47	60	1	0.0111	0.0121	0.0103
29	立山山麓スキー場	22	10	12	0	0.0057	0.0043	0.0078
30	白山一里野温泉スキー場	28	9	19	0	0.0114	0.0061	0.0194
31	草津温泉スキー場	14	5	9	0	0.0036	0.0021	0.0061
32	スノーパーク尾瀬戸倉	5	0	5	0	0.0025	0.0000	0.0051
33	万座温泉スキー場	13	9	4	0	0.0053	0.0054	0.0051
34	ハンターマウンテン塩原	132	29	102	1	0.0248	0.0136	0.0320
35	ダイナランド	246	46	199	1	0.0339	0.0317	0.0343
36	スキージャム勝山	73	19	54	0	0.0116	0.0079	0.0138
37	箱館山スキー場	14	6	8	0	0.0037	0.0028	0.0049
38	ハチ北高原スキー場	92	21	71	0	0.0142	0.0081	0.0182
39	びわ湖バレイスキー場	82	23	50	9	0.0198	0.0185	0.0172
40	奥神鍋スキー場	1	1	0	0	0.0004	0.0008	0.0000
41	ハチ高原スキー場	54	25	29	0	0.0125	0.0193	0.0096
42	だいせんホワイトリゾート	54	31	22	1	0.0038	0.0037	0.0038
43	恐羅漢スノーパーク	62	10	52	0	0.0127	0.0051	0.0178
44	めがひらスキー場	25	6	19	0	0.0084	0.0050	0.0106
45	ユートピアサイオト	9	1	8	0	0.0042	0.0019	0.0050
46	久万スキーランド	13	3	10	0	0.0087	0.0050	0.0112
	合計	2,885	1,191	1,669	25	0.0101	0.0082	0.0119

表7. スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移  
 (スキーヤーの比率：スノーボーダーの比率)

番号	スキー場	2019年2月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月
1	ニセコ東急グラン・ヒラフ	60 : 40	60 : 40	50 : 50	57 : 43	50 : 50
2	朝里川温泉スキー場	80 : 40	80 : 20	60 : 40	60 : 40	60 : 40
3	サッポロテイネススキー場	65 : 35	65 : 35	70 : 30	65 : 35	70 : 30
4	札幌国際スキー場	53 : 47	54 : 46	52 : 48	53 : 47	52 : 48
5	ルスツリゾートスキー場	56 : 40	57 : 43	45 : 55	53 : 47	43 : 57
6	富良野スキー場	69 : 17	67 : 33	66 : 34	64 : 36	65 : 35
7	大鱈温泉スキー場	89 : 12	87 : 13	82 : 18	77 : 23	80 : 20
8	安比高原スキー場	66 : 30	63 : 37	61 : 39	66 : 35	66 : 34
9	みやぎ蔵王白石スキー場	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40
10	みやぎ蔵王えぼしリゾート	40 : 50	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
11	猪苗代スキー場	60 : 40	60 : 40	35 : 65	35 : 65	40 : 60
12	星野リゾート 猫魔スキー場	50 : 50	50 : 50	45 : 55	60 : 40	40 : 60
13	星野リゾート アルツ磐梯	40 : 60	40 : 60	40 : 60	35 : 65	30 : 70
14	会津高原たかつえスキー場	60 : 50	60 : 40	40 : 60	50 : 50	40 : 60
15	たざわ湖スキー場	60 : 30	60 : 40	60 : 40	45 : 55	60 : 40
16	蔵王温泉スキー場	68 : 33	67 : 33	70 : 30	70 : 30	70 : 30
17	苗場スキー場	53 : 48	50 : 49	54 : 46	47 : 54	50 : 50
18	石打丸山スキー場	50 : 50	55 : 45	50 : 50	50 : 50	55 : 45
19	舞子スノーリゾート	40 : 61	40 : 60	40 : 60	27 : 73	40 : 60
20	上越国際スキー場	70 : 40	70 : 30	70 : 30	70 : 30	70 : 30
21	六日町八海山スキー場	57 : 65	63 : 37	61 : 39	54 : 46	65 : 35
22	斑尾高原スキー場	55 : 45	40 : 60	55 : 45	55 : 45	52 : 48
23	野沢温泉スキー場	64 : 35	67 : 33	66 : 34	57 : 43	62 : 38
24	志賀高原地区	65 : 29	72 : 28	69 : 31	78 : 22	70 : 30
25	白馬五竜スキー場	60 : 40	35 : 65	50 : 50	50 : 50	50 : 50
26	白馬八方尾根スキー場	70 : 30	65 : 35	75 : 25	70 : 30	70 : 30
27	白馬岩岳スノーフィールド	55 : 49	50 : 50	40 : 60	40 : 60	40 : 60
28	樽池高原スキー場	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
29	立山山麓スキー場	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40
30	白山一里野温泉スキー場	60 : 30	60 : 40	60 : 40	50 : 50	60 : 40
31	草津温泉スキー場	65 : 29	64 : 36	66 : 34	60 : 40	62 : 38
32	スノーパーク尾瀬戸倉	45 : 55	60 : 40	50 : 50	50 : 50	50 : 50
33	万座温泉スキー場	67 : 30	68 : 32	71 : 29	62 : 38	68 : 32
34	ハンターマウンテン塩原	30 : 70	25 : 75	30 : 70	40 : 60	40 : 60
35	ダイナランド	35 : 65	30 : 70	30 : 70	30 : 70	20 : 80
36	スキージャム勝山	46 : 50	45 : 55	40 : 60	37 : 63	38 : 62
37	箱館山スキー場	73 : 29	60 : 40	40 : 60	50 : 50	57 : 43
38	ハチ北高原スキー場	35 : 60	40 : 60	32 : 68	40 : 60	40 : 60
39	びわ湖バレイスキー場	36 : 57	41 : 59	41 : 59	60 : 40	30 : 70
40	奥神鍋スキー場	60 : 50	50 : 50	50 : 50	50 : 50	55 : 45
41	ハチ高原スキー場	50 : 40	50 : 50	30 : 70	30 : 70	30 : 70
42	だいせんホワイトリゾート	65 : 28	64 : 36	63 : 37	65 : 35	59 : 41
43	恐羅漢スノーパーク	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
44	めがひらスキー場	28 : 60	20 : 80	30 : 70	35 : 65	40 : 60
45	ユートピアサイオト	30 : 40	20 : 80	30 : 70	20 : 80	25 : 75
46	久万スキーランド	33 : 32	30 : 70	20 : 80	20 : 80	40 : 60
	平均	54.6 : 43.3	53.1 : 46.9	50.6 : 49.4	50.6 : 49.4	51.0 : 49.0

## 9. 受傷時間帯

図6は時刻毎に発生した受傷数を示したものです。

スキーでは11時台が最も多く、次いで10時台でしたが、10～14時台までほぼまんべんなく受傷していました。スノーボードでは、14時台が最も多く、次いで11時台でした。

合計では11時台と14時台に多発しています。このように時間帯による受傷数に2峰性が観られる原因として、スキー場の混雑、雪質や雪の状態の変化、疲労など人的・環境的要因が影響しているものと考えられます。12時台と13時台が減少しているのは、昼食時間帯のためと考えられます。受傷数が多い時間帯（特に昼食時間帯前と14時台）は注意して行動しましょう。

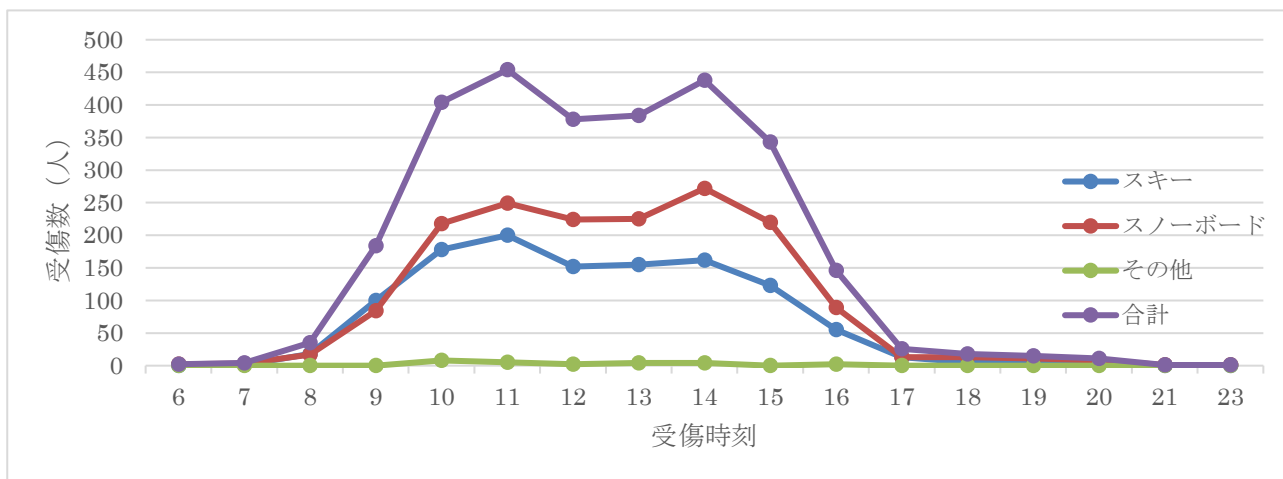


図6. 受傷時間帯

## 10. 天候

図7-1は受傷時の天候です。晴が50.2%と約5割弱を占め、次いで雪が25.5%、曇が21.1%でした。晴れた日にはスキー場の入場者数が増える上に、スピードも出しやすくなるので、天候が傷害発生の間接的原因の一つと思われます。

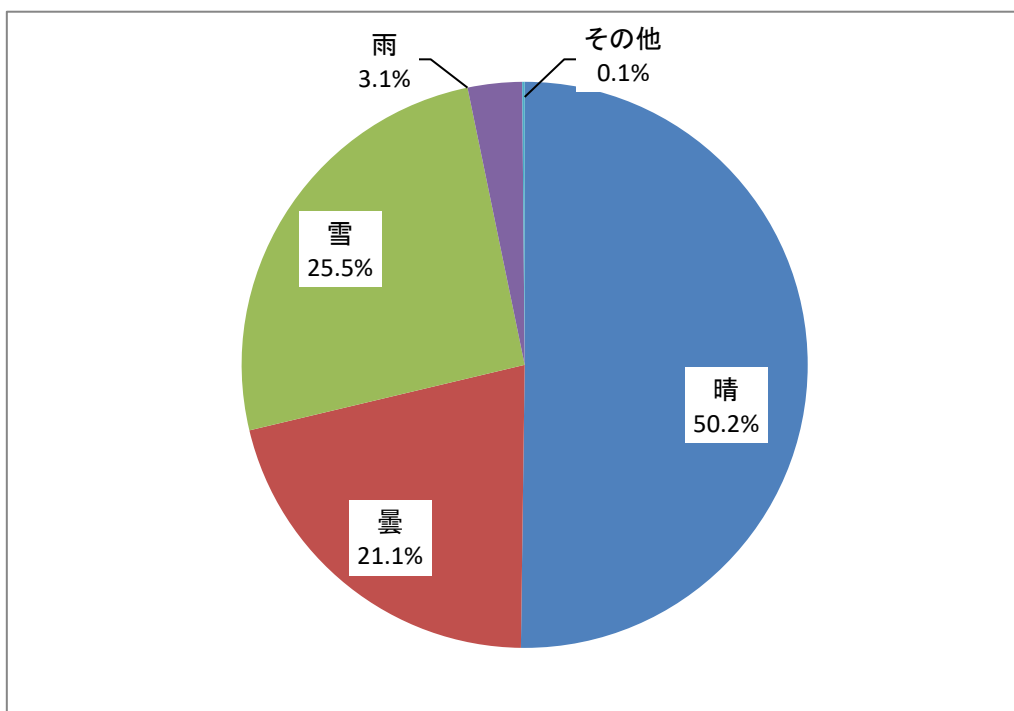


図7-1. 天候



図7-2は、2月の傷害発生数と天候の内訳を示しています。傷害発生数について、休日は平日の約2倍（平日平均78人、休日平均148人）多く、日曜日よりは土曜日が多く、休日が晴天だと傷害発生数も多いことがわかります。22/23シーズン2月の祝日（建国記念日）は土曜だったため連休とならず、2月の傷害発生数ピークは、雨天のところが多かったにもかかわらず18日（土）となりました。

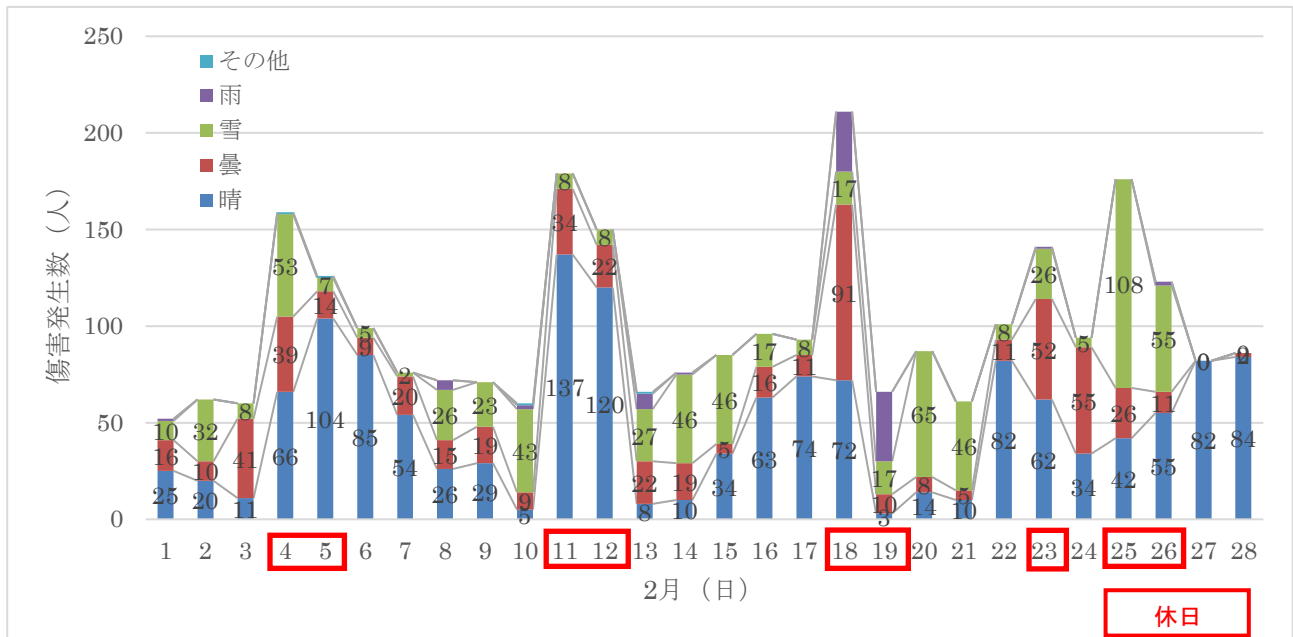


図7-2. 2月の傷害発生数と天候内訳

## 11. 性別

図8は受傷者の性別割合を示したものです。「合計」とはスキー、スノーボード、ソリ・その他を合計したものです。

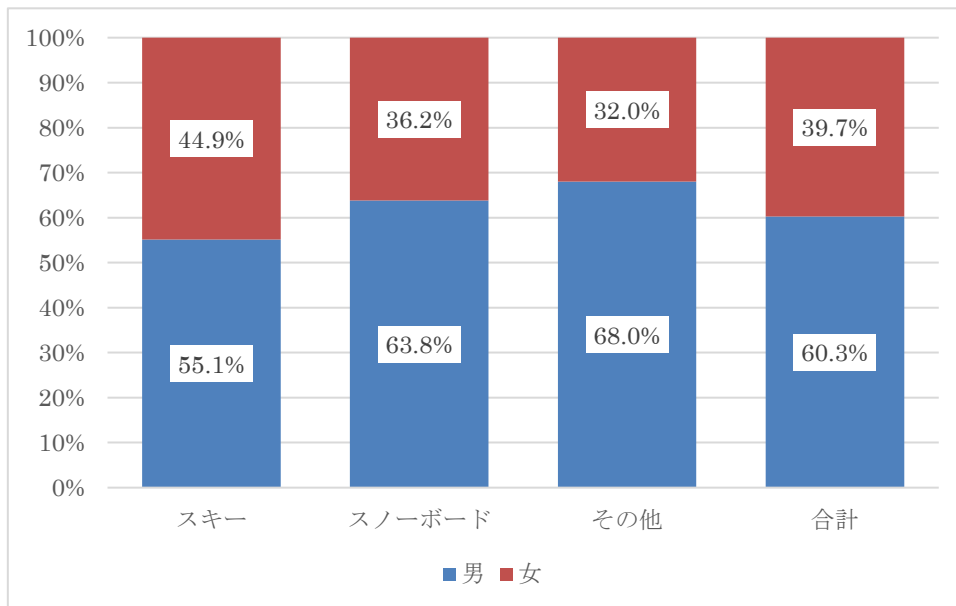


図8. 性別

## 12. 年齢

図9は受傷者の年代を示したものです。スキーの受傷者は、50歳代が19.5%と最も多く、20歳代(18.7%)、10歳代(17.5%)、60歳代(11.8%)、40歳代(11.6%)、と続き、80歳以上で1.3%(40歳代以上合計49.5%)と、スノーボードに比べ年齢層が広く、高齢者の割合も多いことが分かります。スノーボードの受傷者は40歳未満が全体の86.0%を占め、スキーに比べて若年層が圧倒的に多いことがわかります。

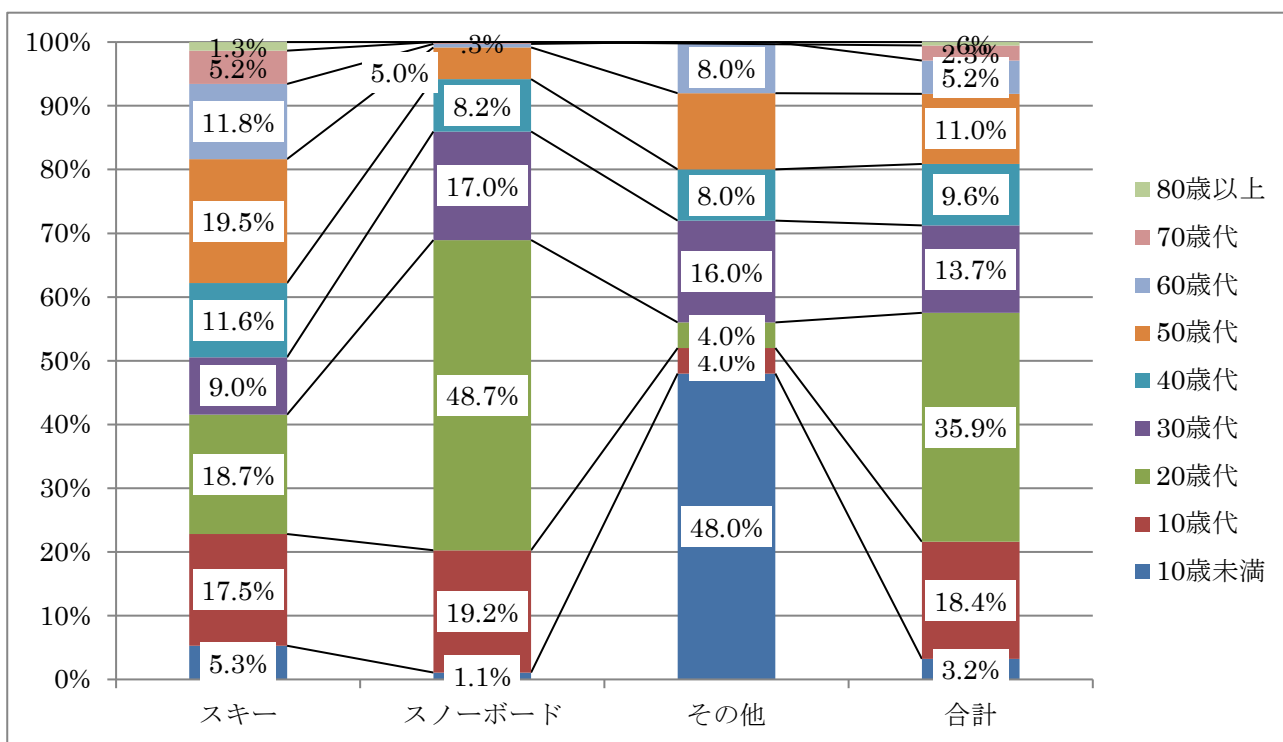


図9. 年齢

### 13. 技能

図10-1 は受傷者の技能を示したものです。スノーボードの受傷者は「中級」以下が92.43%を占めるのに対して、スキーは「中級」以上が57.4%を占めています。

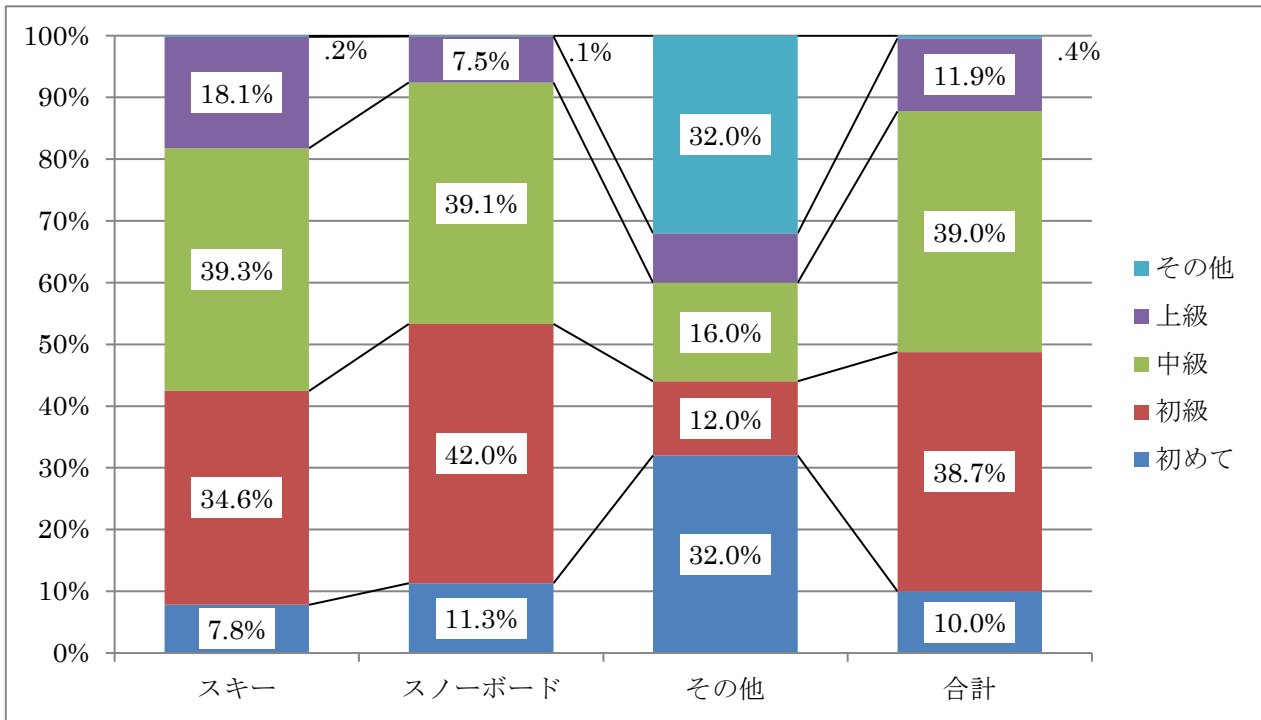


図10-1. 技能

図10-2 は受傷者の技能を性別に示したものです。スキー・スノーボードの受傷者とも技能レベルは男性が女性より高くなっています。これは、スキー、スノーボードの愛好者の人口そのものが、男性が女性より中・上級者の占める割合が高いことと関連があると思われます。

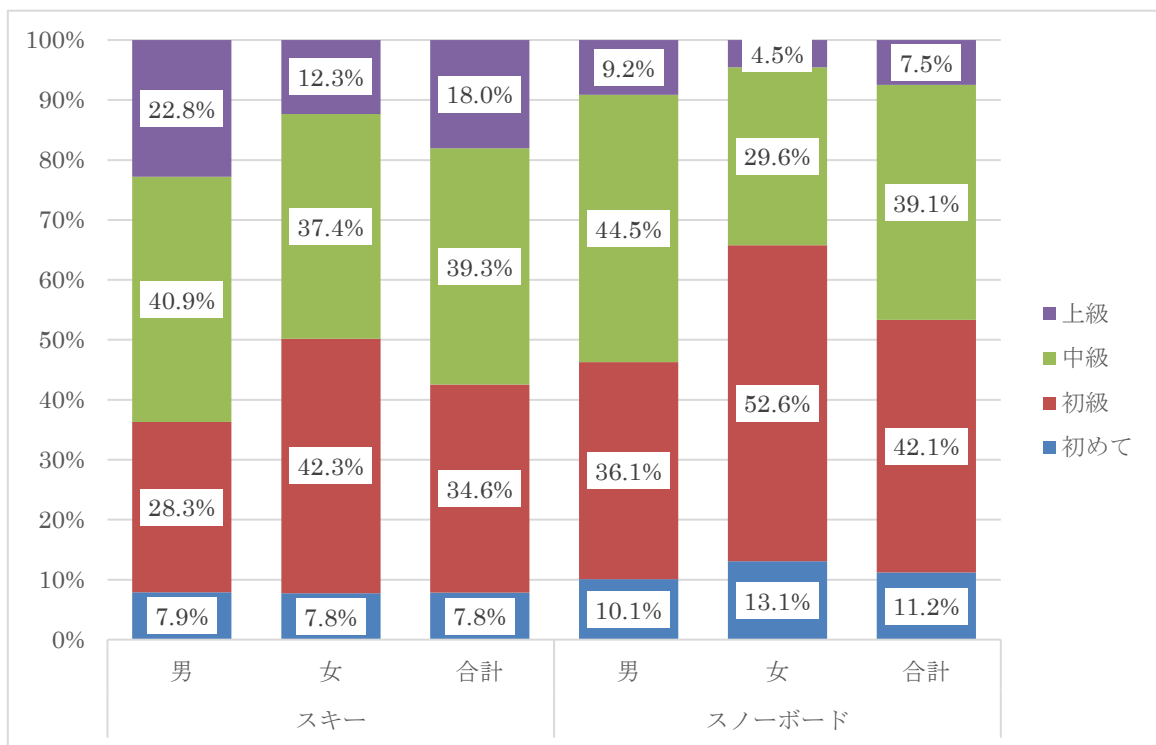


図10-2. 性別技能

#### 14. 受傷場所

図 11-1 は受傷場所を斜面別に、図 11-2 はパークの種別を示したものです。スノーボードでは、「ワンメイク」での受傷の割合がスキーと比べて3.6ポイント高くなっています。スノーボードの「その他の場所」では、ボックス、キッカー、FRP、レールが多く見られました。

図 11-3 は、リフト乗り場・乗車中・降り場での傷害数（人）を示し、スノーボーダーでは乗り場より降り場でのケガが2.9倍多いことから、降り場での降車補助や指導が必要であることが伺えます。

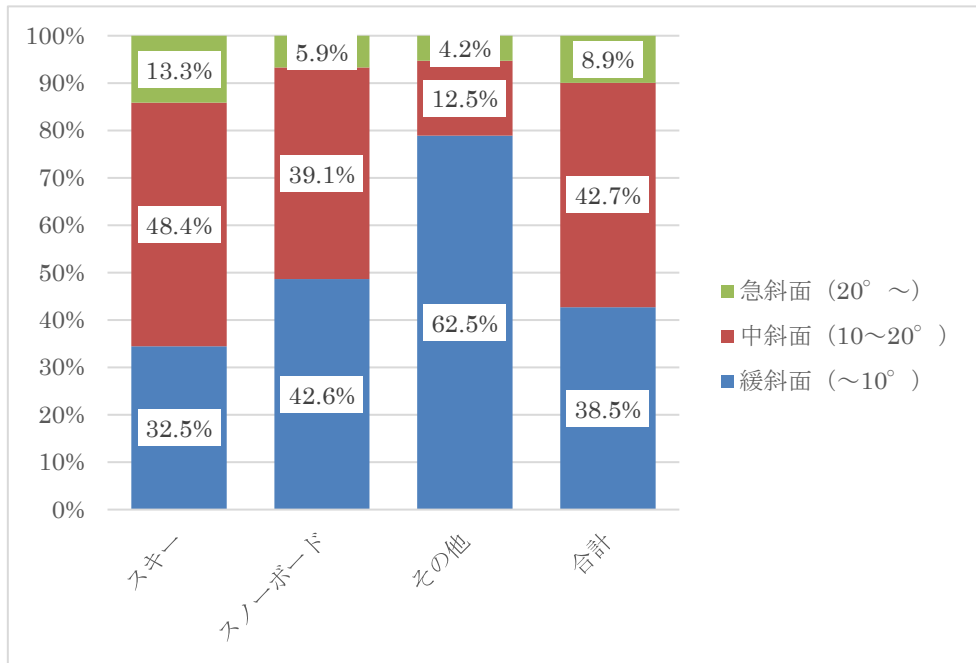


図 11-1. 受傷場所（斜面）

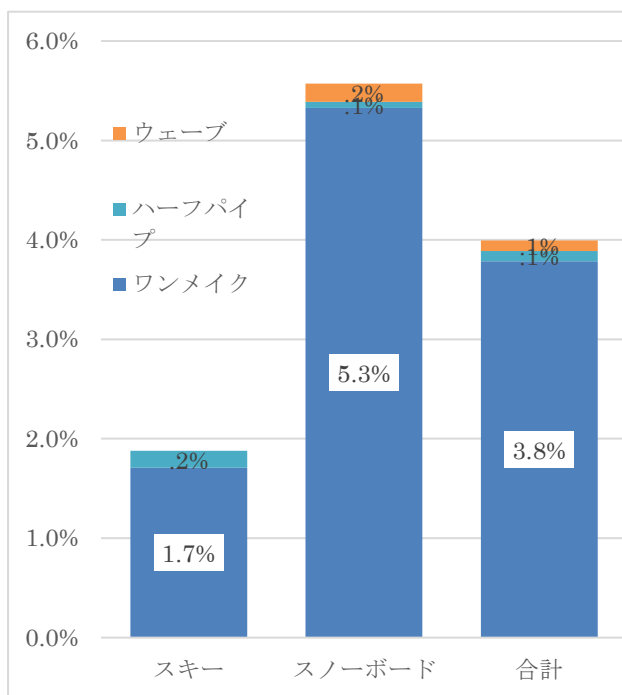


図 11-2. 受傷場所（パーク）

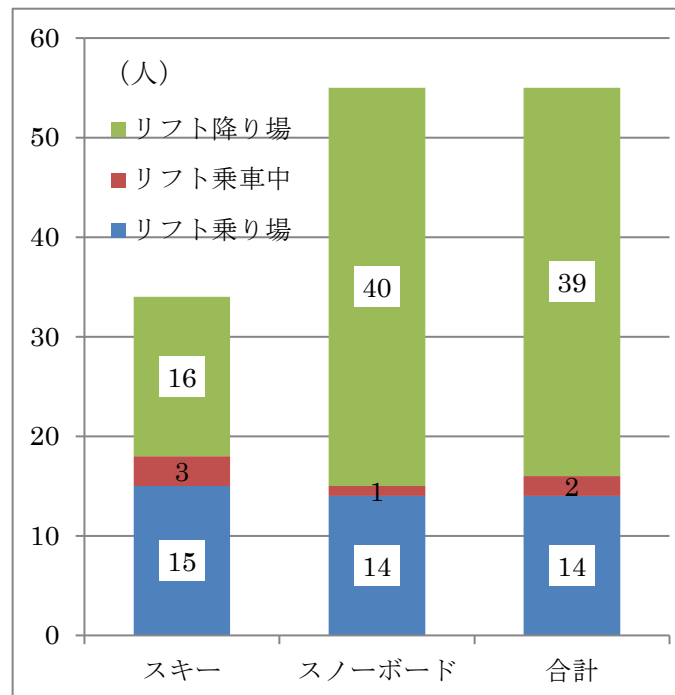


図 11-3. リフト乗り場・乗車中・降り場の傷害数

## 15. 受傷原因

図12-1 は受傷原因を示したものです。「自分で転倒」の割合が最も高く、スキーは77.9%、スノーボードは82.0%を占め、「人と衝突」の割合はスキーがスノーボードより5.6ポイント高率でした。

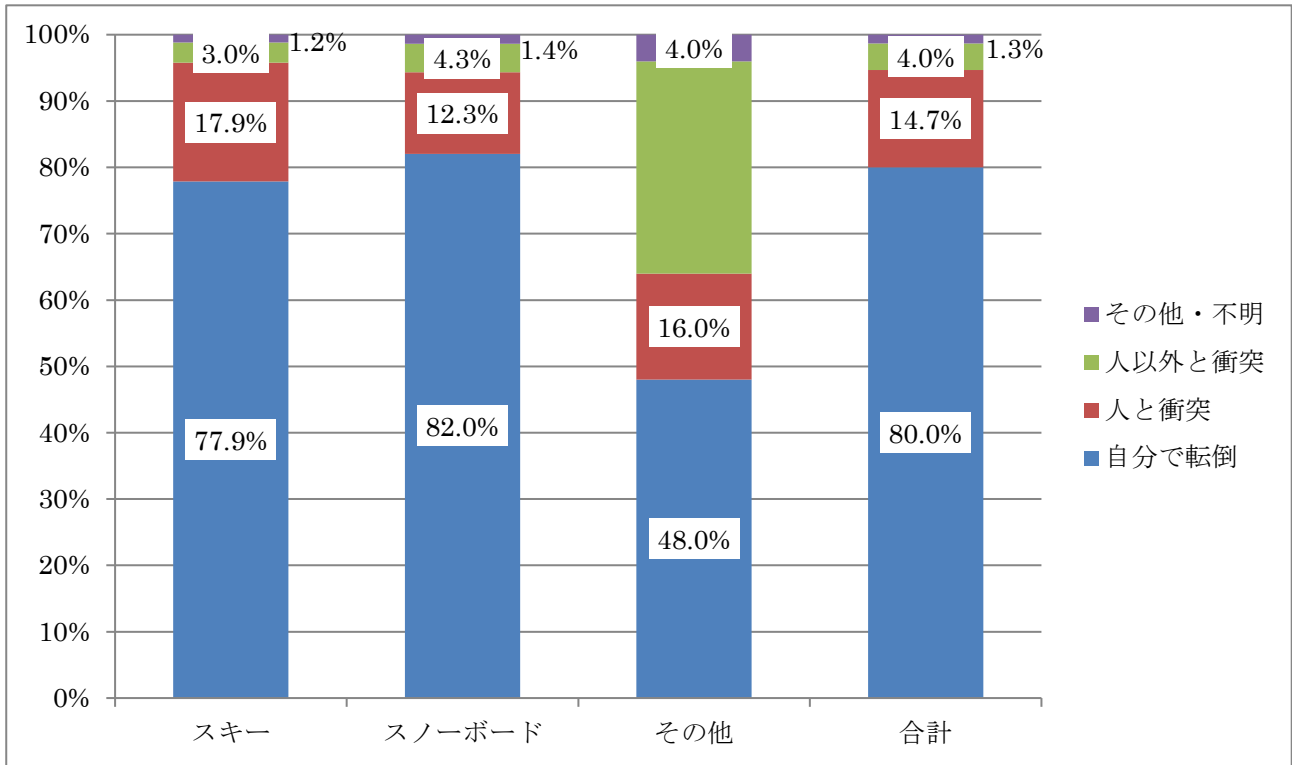


図 12-1. 受傷原因

図 12-2 は受傷原因のうち「自分で転倒」についての内訳です。スキー、スノーボードとも「バランスを崩して転倒」の割合が最も高く、スキーでは 81.6%、スノーボードでは 68.1%を占めました。スノーボードの「ジャンプ失敗」「トリック失敗」は合わせて 13.7%でした。

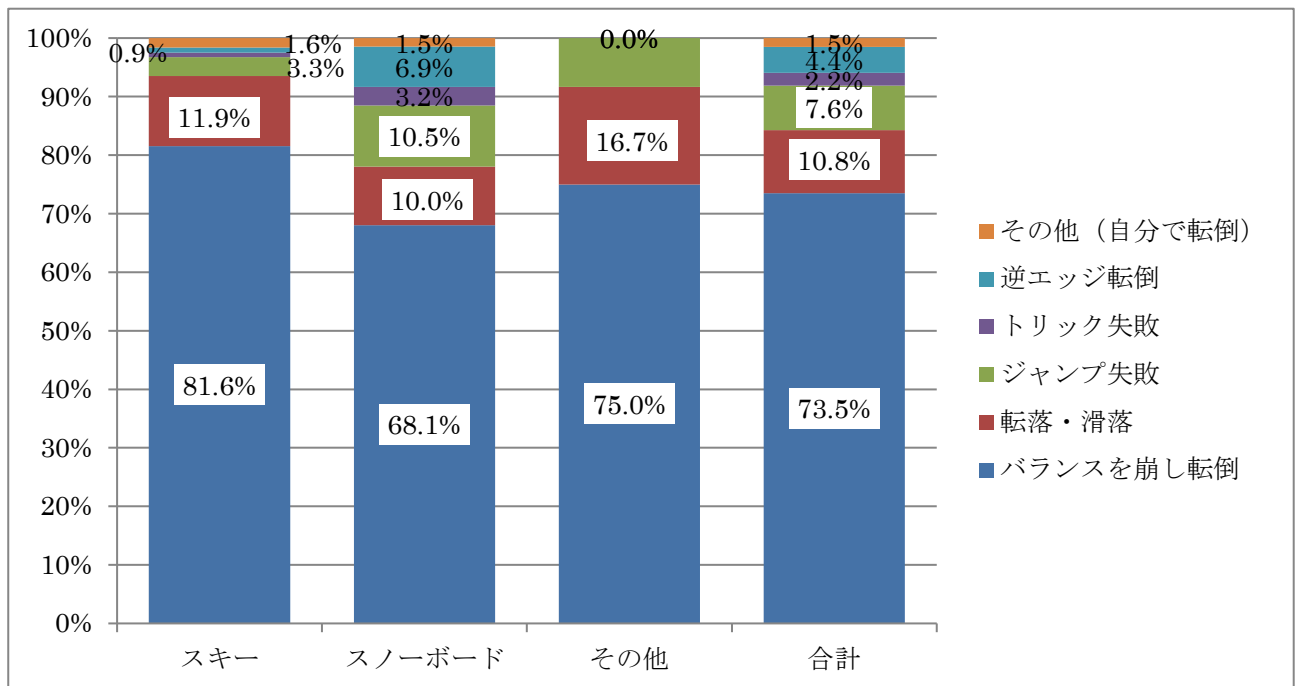


図 12-2. 受傷原因「自分で転倒」の内訳

図12.3 は受傷原因のうち「人と衝突」についての内訳です。スノーボーダーでは、スキーヤー：スノーボーダーとの衝突比が1：3.4だったのに対して、スキーヤーでは、1：1.3でした。この原因として、スノーボーダーは横乗りの影響で背中合わせの視界不良となる組み合わせが起こるため、スノーボーダー同士の衝突が多いと考えられます。

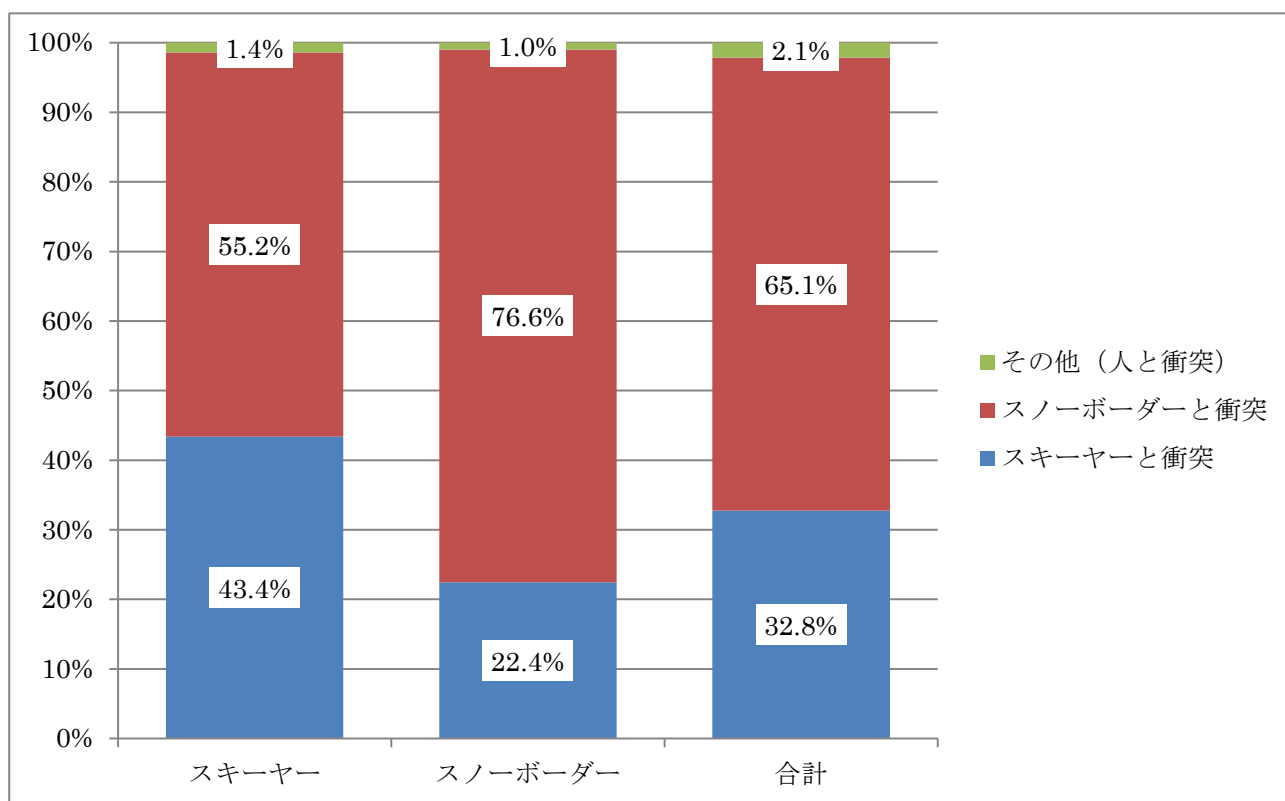


図 12-3. 受傷原因「人と衝突」の内訳

受傷原因のうち「人以外との衝突」で最も多かったのは「立ち木」で、スキーで12件、スノーボードで51件でした。次に「その他の物」との衝突も多く、スキー18件、スノーボードで20件でした。

※ 衝突相手の確認について

「人と衝突」したのは421件でした。このうち「相手の確認」の有無の欄に回答した130件中、89件(68.5%)が衝突の相手を「確認している」、41件(31.5%)が「不明」と回答していました。このことから「人と衝突」の約3件に1件は衝突相手を確認できない「当て逃げ」が発生していたことが分かります。

※ 飲酒について

スキー、スノーボードで飲酒の有無欄に記載があったのは2,322件で、このうち「飲酒」とあったのは33件(1.4%)でした。

## 16. 傷害の部位と種類

傷害の部位と種類は、調査用紙に記入された1番から4番のすべてを合計した受傷数（回答数）です。すなわち、一人で複数箇所(最大4箇所まで)をけがした場合でもすべて集計してあります(重複回答)。図中のnは集計の対象とした受傷数（回答数）です。

### 1) スキーの傷害部位と種類

図13-1 はスキー（アルペンスキー、スキーボード、テレマークスキー、その他のスキー）を合計した傷害の部位です。膝が最も多く（35.9%），下腿（11.8%），肩（9.8%），足首（7.2%），頭部（4.6%），の順に多く受傷していました。この上位5部位で全傷害の69.3%を占めました。

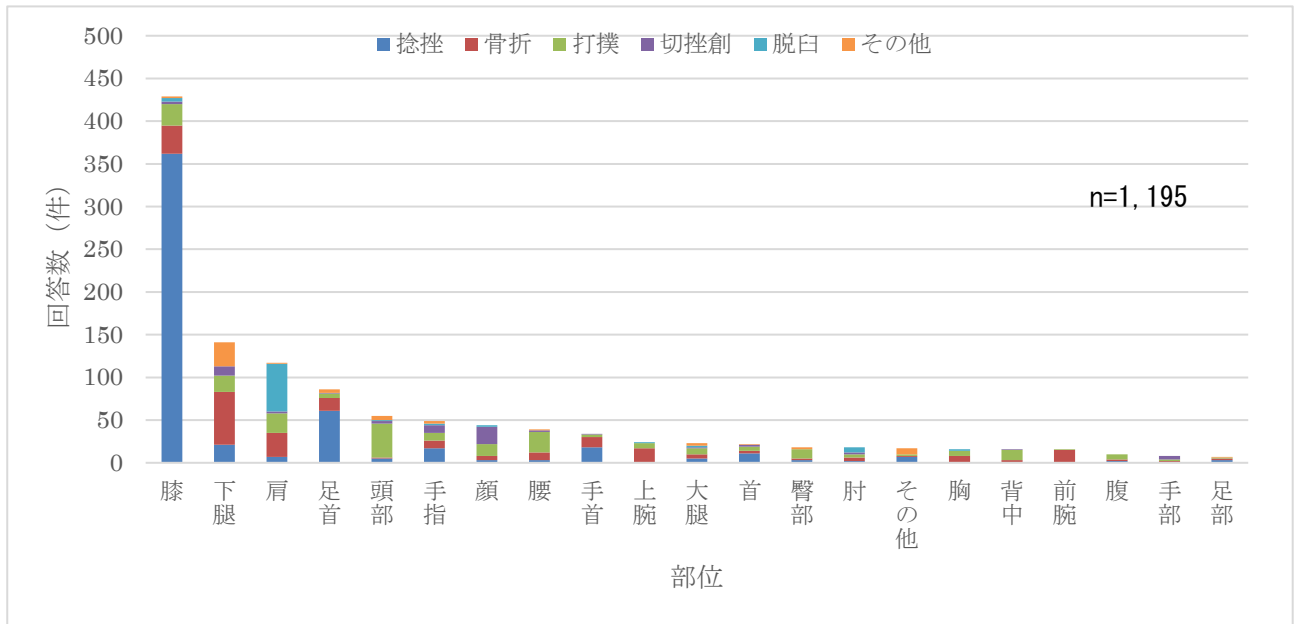


図13-1. スキーの傷害部位と種類(重複回答)

図13-2 はスキーにおける「自分で転倒」の場合の傷害部位と種類について、上位5部位を示しています。膝が最も多く、膝の84.4%が捻挫，下腿の44.0%が骨折，肩の47.9%が脱臼，足首の70.92%が捻挫，頭部の72.7%が打撲でした。

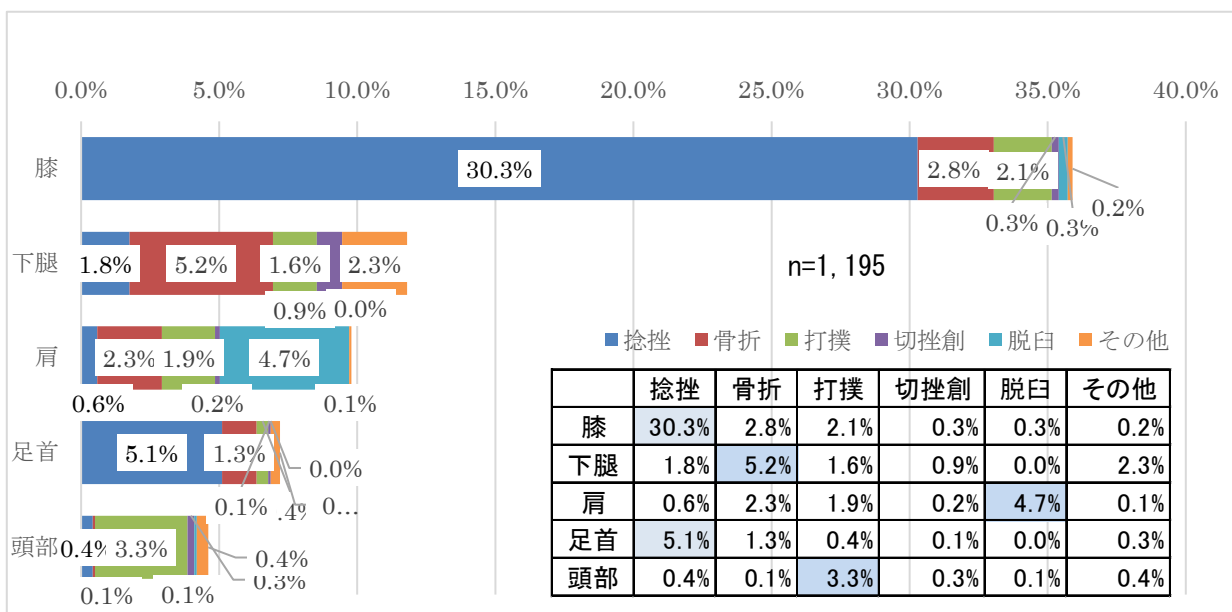


図13-2. スキーにおける「自己転倒」時の傷害部位と種類(重複回答)

## 2) スノーボードの傷害部位と種類

図 13-3 はスノーボード（フリースタイルスノーボード、アルペンスノーボード、その他のスノーボード）を合計した傷害部位と種類です。肩(22.9%)、手首(16.6%)、肘(8.4%)、頭部(8.0%)、膝(7.4%)の順に多く受傷しています。この上位5部位で全傷害の63.3%を占めました。肩と上肢の合計は57.4%に達し、スキーの下肢の合計(57.5%)と比べて対照的で、スノーボードでは肩を含めた上肢のケガが多いことがわかります。



図 13-3. スノーボードの傷害部位と種類(重複回答)

図13-4 はスノーボードにおける「自分で転倒」の場合の傷害部位と種類について、上位5部位を示しました。肩と手首の割合が多く、肩の62.3%が脱臼、手首の70.9%が骨折でした。手首と前腕を合わせると全傷害の21.0%、さらに肘を含めると29.4%を占めました。頭部のケガの90.8%が骨折・打撲・切挫創であることから、ヘルメット着用の重要性を示しています。

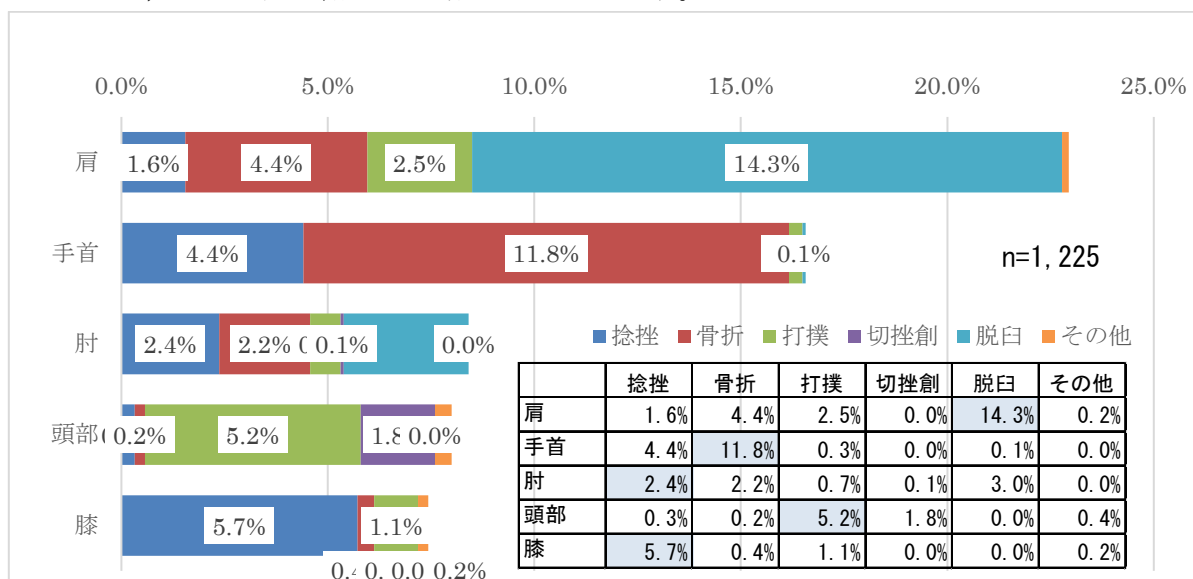


図13-4. スノーボードにおける「自己転倒」の傷害部位と種類(重複回答)



### 3) ソリの傷害

ソリの受傷は25件で、傷害の程度は3件が重傷、11件が中等傷、11件が軽傷でした。表8にその受傷概況を示しました。

表 8. ソリの傷害の概況

	性別	年齢	用具	受傷場所	受傷原因	部位1	部位1_種類	傷害程度
1	男	64	立ち乗りソリ	リフト降り場	その他	大腿	骨折	重傷(緊急に必要)
2	男	34	子ども用ソリ	リフト降り場	その他(人以外と衝突)	下腿	切挫創	中等傷(必要あり)
3	男	35	腰掛ソリ	その他	その他(人以外と衝突)	足部	打撲	中等傷(必要あり)
4	女	43	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	バランスを崩し転倒	大腿	骨折	重傷(緊急に必要)
5	女	6	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人以外と衝突)	その他	切挫創	中等傷(必要あり)
6	男	57	立ち乗りソリ	緩斜面(～10°)	バランスを崩し転倒	肩	脱臼	中等傷(必要あり)
7	男	60	立ち乗りソリ	中斜面(10～20°)	バランスを崩し転倒	顔	切挫創	中等傷(必要あり)
8	女	7	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	転落・滑落	下腿	捻挫	中等傷(必要あり)
9	男	53	その他のソリ	中斜面(10～20°)	バランスを崩し転倒	足首	捻挫	軽傷(さほど必要なし)
10	女	21	腰掛ソリ	緩斜面(～10°)	転落・滑落	その他	切挫創	中等傷(必要あり)
11	男	30	立ち乗りソリ	中斜面(10～20°)	ジャンプ失敗	腰	打撲	中等傷(必要あり)
12	男	3	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人以外と衝突)	顔	切挫創	中等傷(必要あり)
13	男	45	立ち乗りソリ	急斜面(20°～)	バランスを崩し転倒	手首	捻挫	軽傷(さほど必要なし)
14	男	52	その他のソリ	その他	バランスを崩し転倒	腰	打撲	重傷(緊急に必要)
15	男	35	立ち乗りソリ	その他	バランスを崩し転倒	その他	骨折	中等傷(必要あり)
16	女	9	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人と衝突)	下腿	打撲	軽傷(さほど必要なし)
17	男	3	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人以外と衝突)	頭部	打撲	軽傷(さほど必要なし)
18	女	7	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	バランスを崩し転倒	顔	打撲	軽傷(さほど必要なし)
19	男	5	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人以外と衝突)	顔	切挫創	軽傷(さほど必要なし)
20	男	4	子ども用ソリ		その他(人と衝突)	頭部	打撲	軽傷(さほど必要なし)
21	女	4	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人と衝突)	頭部	打撲	軽傷(さほど必要なし)
22	女	5	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	ネット	頭部	打撲	軽傷(さほど必要なし)
23	男	7	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人以外と衝突)	膝	捻挫	軽傷(さほど必要なし)
24	男	2	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	その他(人と衝突)	頭部	打撲	軽傷(さほど必要なし)
25	男	12	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	バランスを崩し転倒	腰	打撲	中等傷(必要あり)

## 17. 傷害程度

図14 は傷害の程度を示したものです。重傷の割合はスキーで8.9%，スノーボードで7.4%，中等傷ではスノーボードがスキーに比べては10.3ポイント大きかった。合計で，中～重傷を合わせると71.2%を占め，スノースポーツにおける傷害の程度が決して軽くないことがわかります。シーズン中の死亡事故については，資料1～3 をご覧ください。

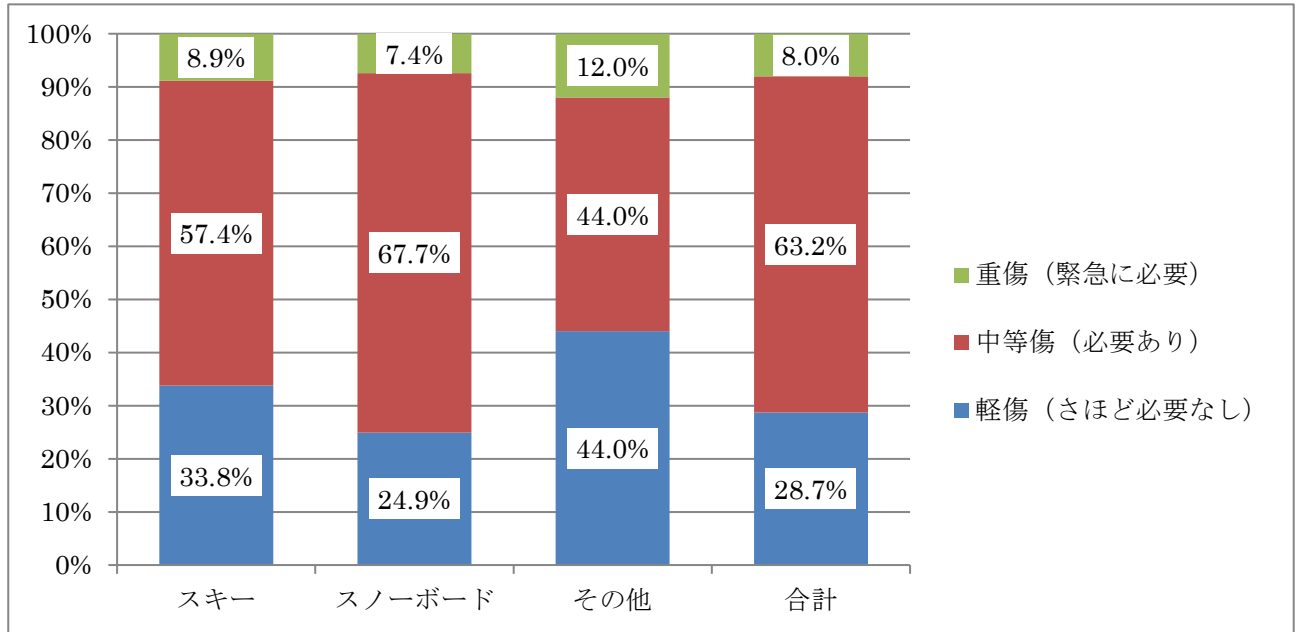


図14. 傷害程度

## 18. 頭を強く打った疑い

図15 は「頭を強く打った疑い」の割合です。スキーもスノーボードも12～13%台の高率で頭部を強打していることから，ヘルメットの着用が強く勧められます。また，頭部強打の際に頸髄損傷も同時に起こる可能性が高いので受傷後注意が必要です。

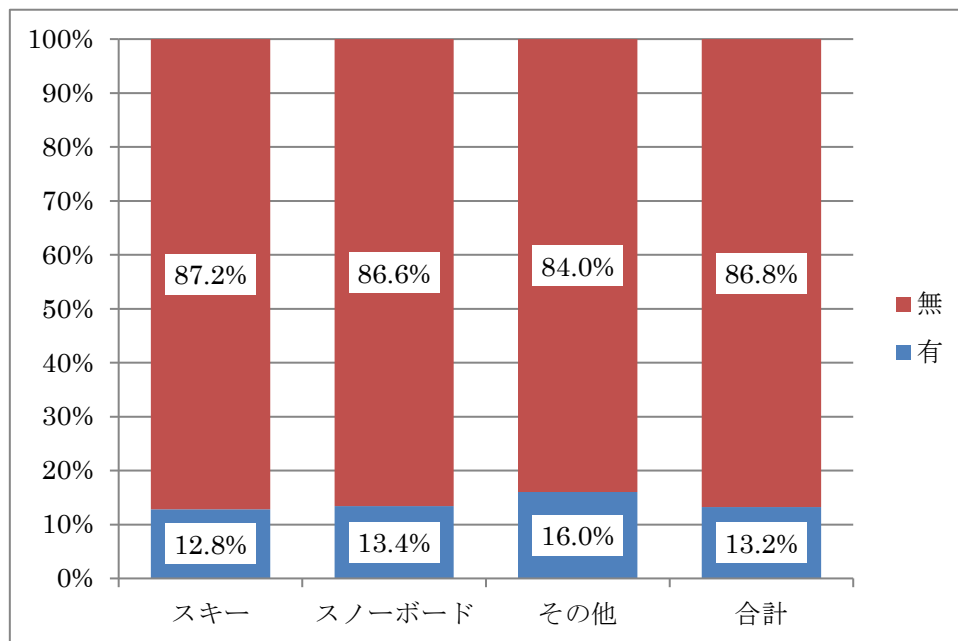


図 15. 頭を強く打った疑い

### 19. ヘルメットの着用状況

図16-1 は受傷時のヘルメット着用有無の割合を示したものです。スキーでは48.8%と昨シーズンより3.7ポイント増え過去10間で最高となりました。スノーボードでは26.5%で昨シーズンより7.4ポイント増加し、スキー同様過去10間で最高となりました。

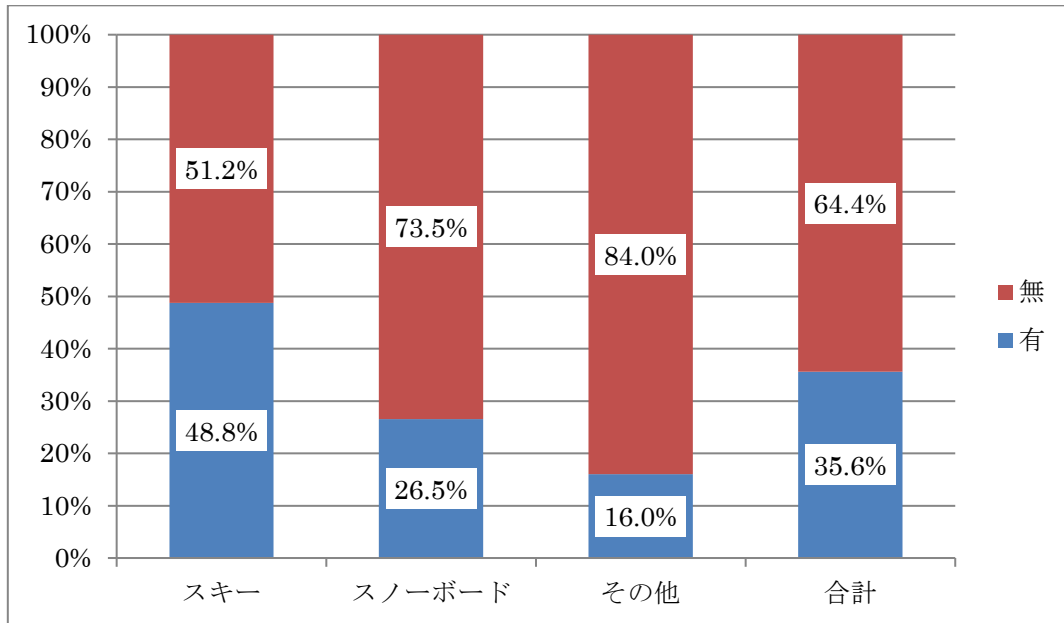


図 16-1. ヘルメット着用の有無

図 16-2 に、過去 10 年間のヘルメット着用率の推移について、スキーとスノーボード別に示しました。19/20 シーズンまでヘルメット着用率が増加していましたが、20/21 シーズンに一気に減少したもののこの 3 シーズンで回復し、スキー・スノーボードとも過去 10 年間の最高値を更新しました。欧米のヘルメット着用率の約 8 割には到底及ばないので、さらなる啓蒙活動が望まれます。

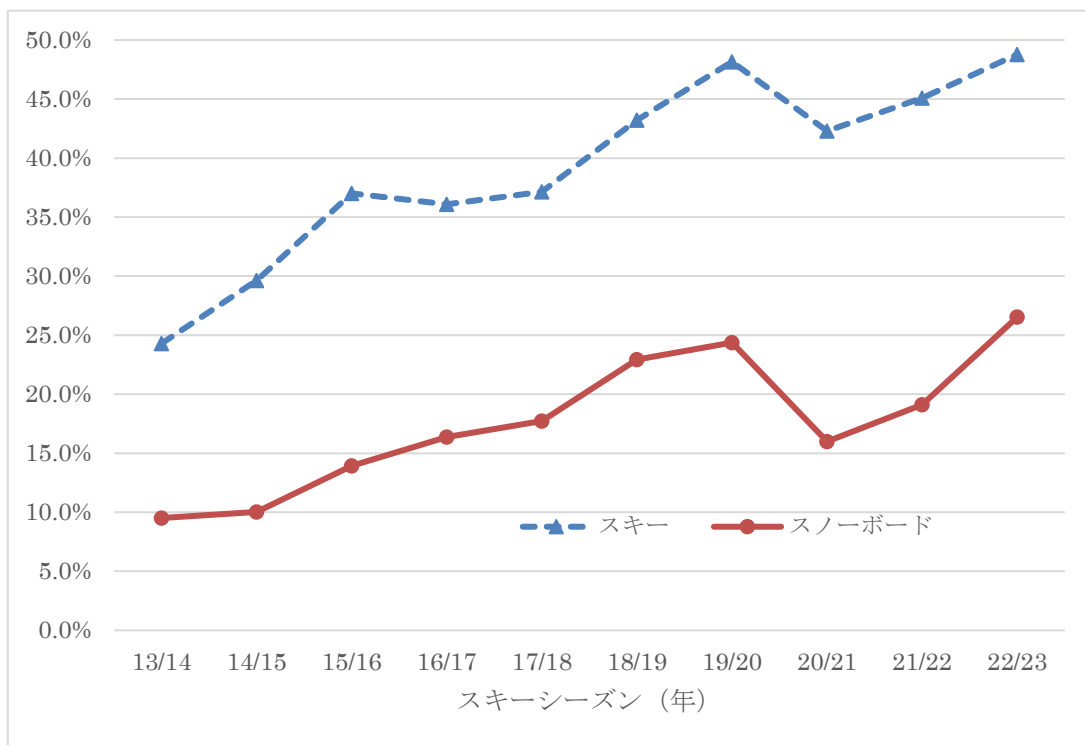


図 16-2. ヘルメット着用率の推移

## 20. 保険の加入状況

### 1) 傷害保険の加入状況

図17-1 は受傷者の傷害保険の加入状況を示し、スキーマの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも14.1ポイント加入率が高率でした。加入しているかどうか分からない受傷者が、スキーやスノーボードで約4割も存在することは驚きです。さらなる保険加入への啓蒙活動が必要です。

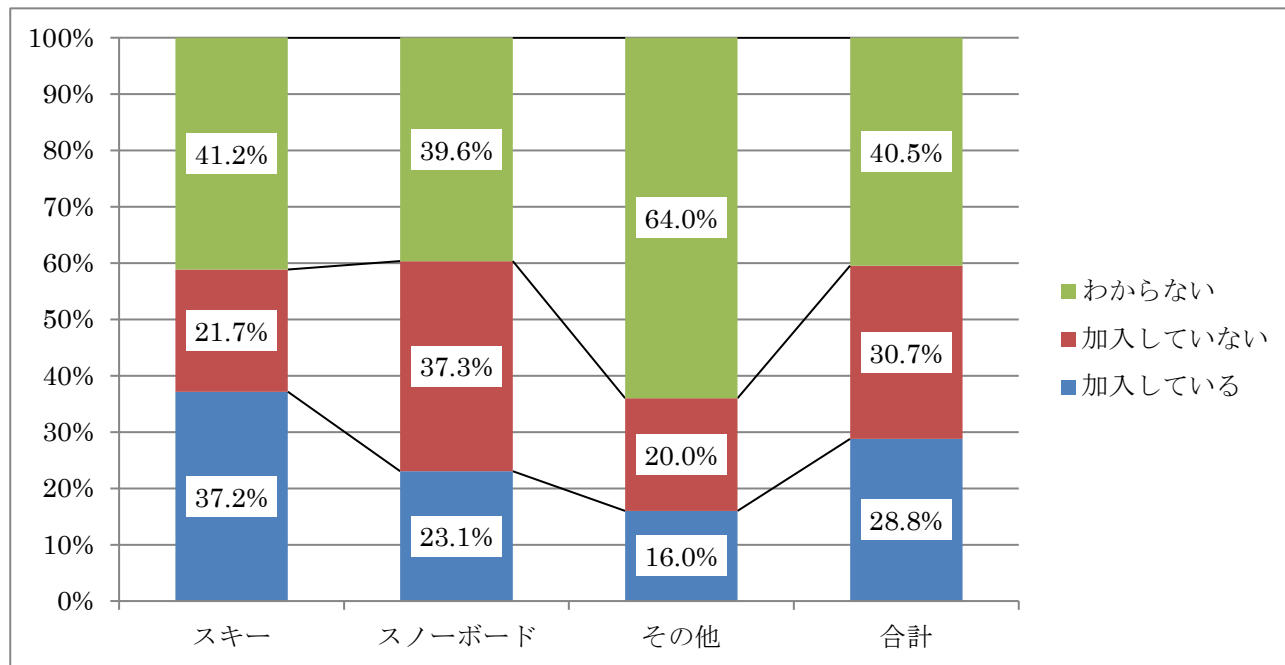


図17-1. 傷害保険の加入状況

### 2) 賠償責任保険の加入状況

図17-2 は受傷者の賠償責任保険の加入状況です。傷害保険と同様にスキーマの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも10.0ポイント高率でした。加入しているかどうか分からない受傷者が、スキー・スノーボード共に約5割強もいました。

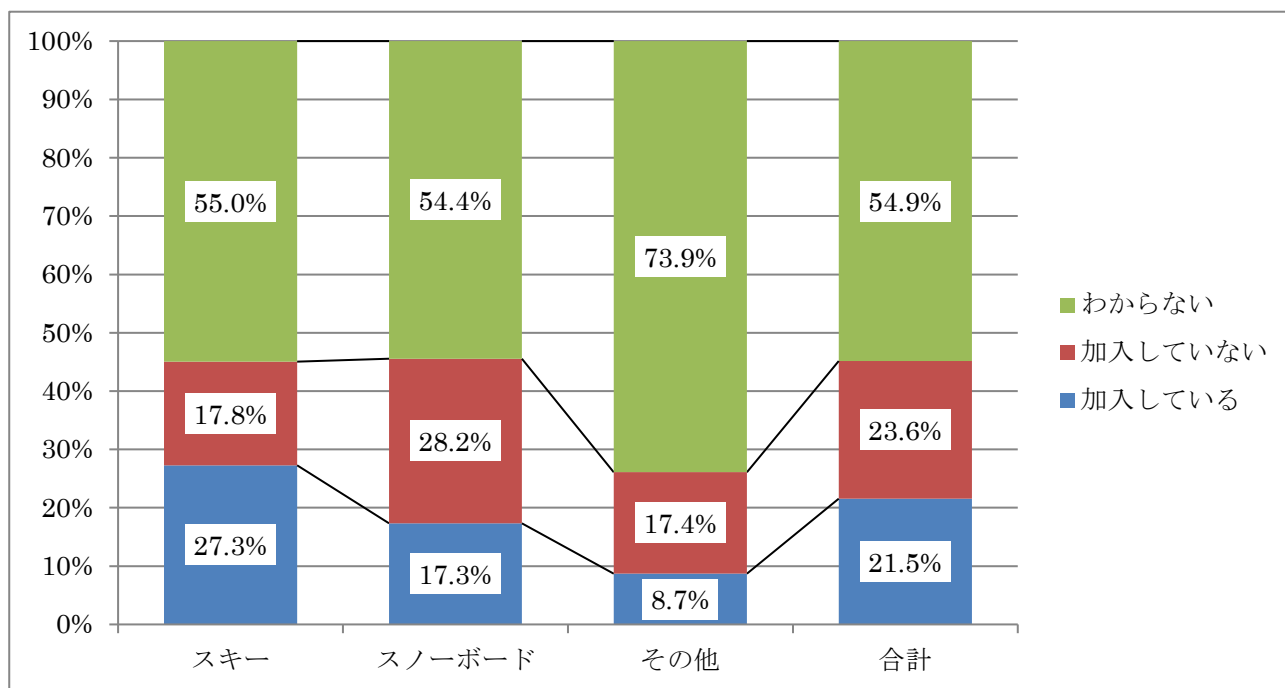


図 17-2. 賠償保険の加入状況

## 21. 受傷時の行動

図18-1 は受傷時の行動について示したものです。スキー・スノーボードとも「プライベート」での受傷が最も多く、84.8～97.1%を占めました。スキーにおいて「講習中」の受傷の割合が比較的高いのは、スノーボードよりスキースクール等での講習を受講する機会が多いことと関連があると思われます。

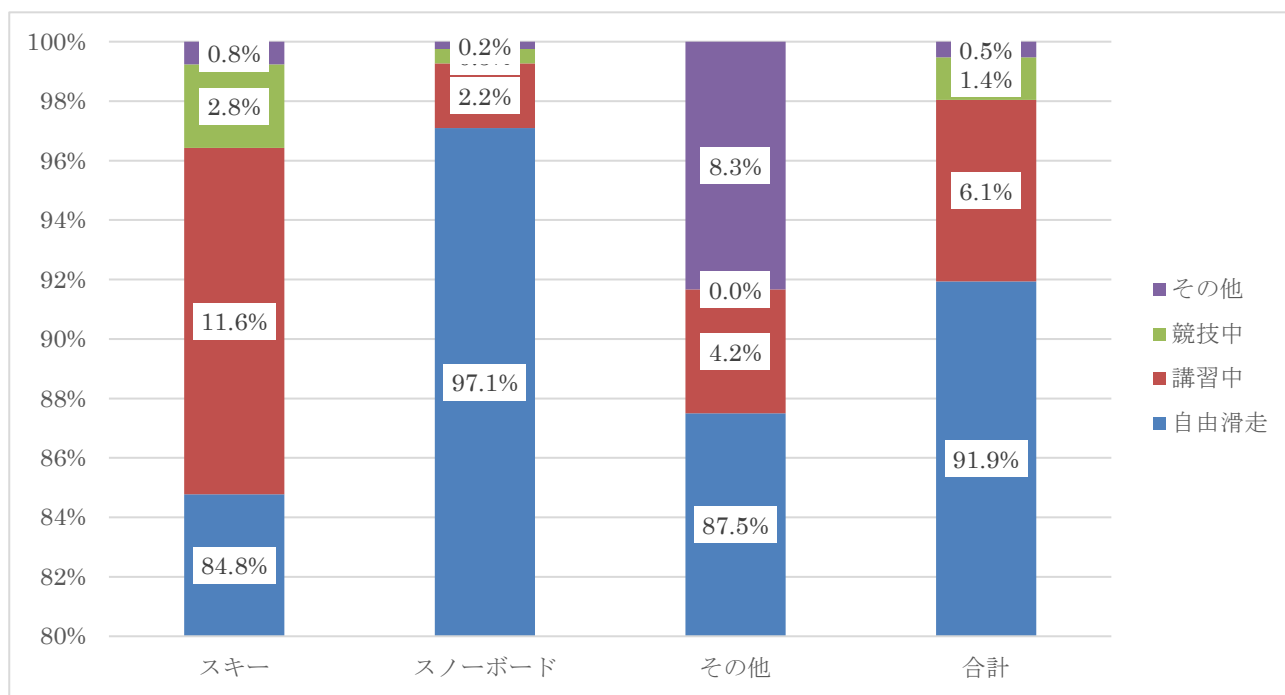


図 18-1. 受傷時の行動

図18-2 は受傷時の行動のうち「講習中」の内訳です。スキーヤー137人、スノーボーダー36人が受傷していました。「授業・講習中」に「生徒」が受傷したと回答があったのはスキー69人、スノーボードが12人でした。「授業・講習中」に「指導者」が受傷したと回答があったのは、スキー2人、スノーボードが0人でした。

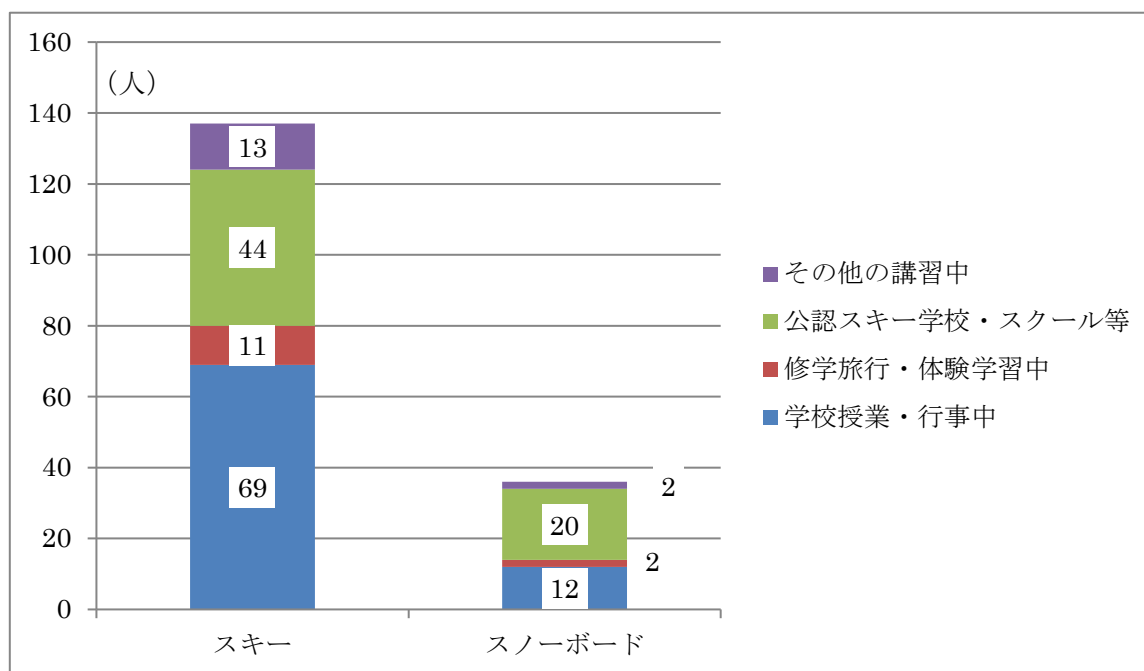


図 18-2. 受傷時の行動「講習中」の内訳

## 22. 受傷時のスピード

図19 は受傷時の「自覚的」スピードを示したものです。スキー・スノーボードともに約78～81%が「ふつう」以下のスピードで受傷しています。「自己転倒」による受傷はスキーで81.6%，スノーボードで68.1%に達することから、「ふつう」のスピードと感じていても自分で制御できないほどのスピードが出ていることがわかります。「速度」を自覚し少しでも不安を感じたら「速度」を抑えることが傷害予防の重要なカギとなります。

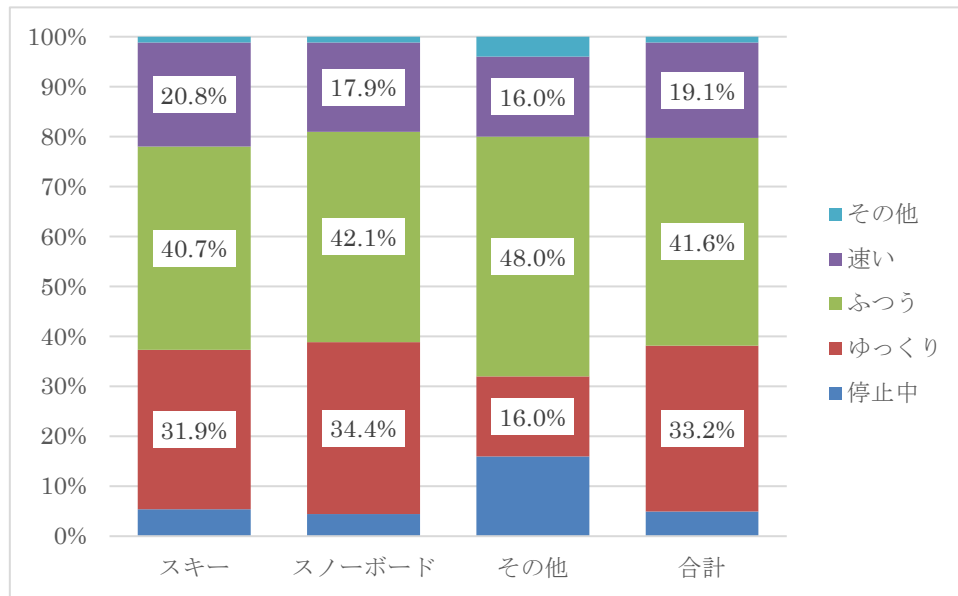


図 19. 受傷時のスピード

## 23. 雪面状況

図20 は受傷時の雪面状況です。スキー、スノーボードともに受傷時の雪面は「スムーズ（圧雪）」の割合が最も高く、約80～89%を占めていました。

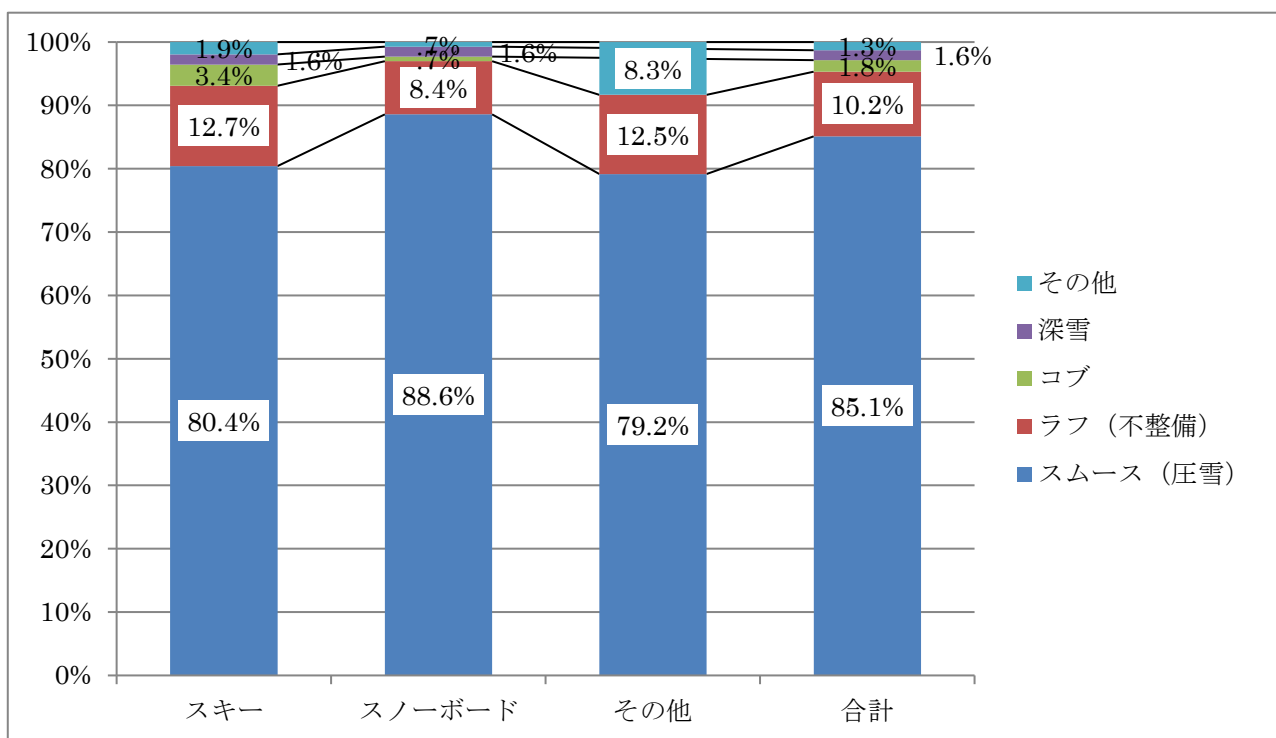


図 20. 雪面状況

## 24. 雪質

図21 は受傷時の雪質です。スキー、スノーボード、その他の合計で56.9%が乾雪、33.1%が湿雪、6.2%がアイスバーンでした。

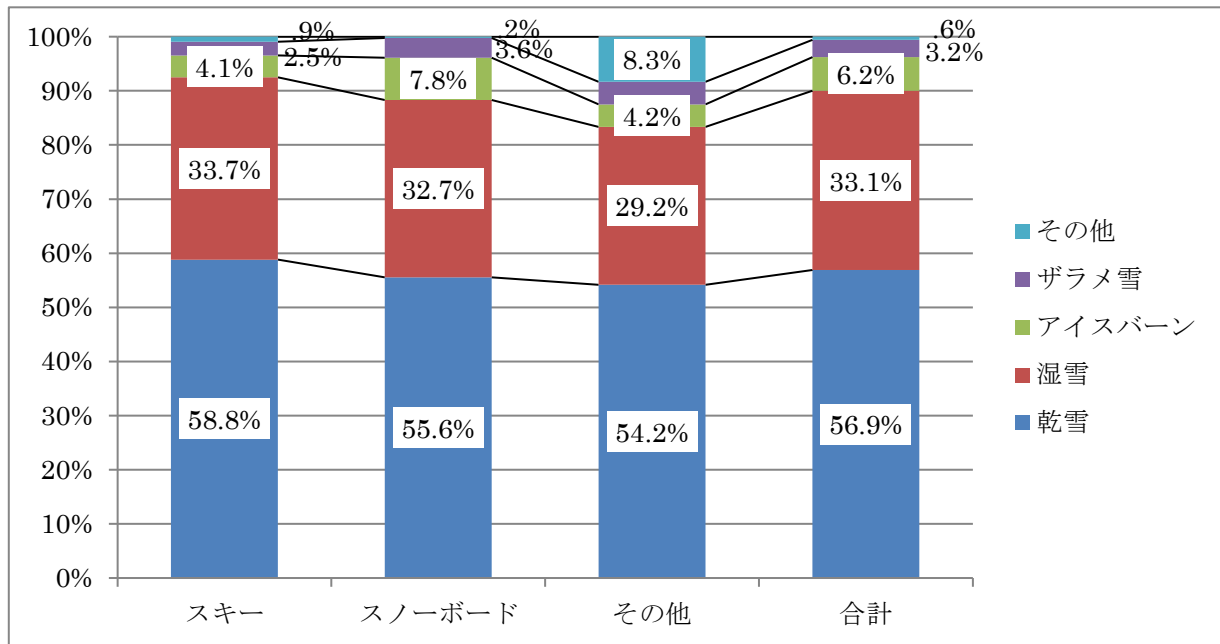


図 21. 雪質

資料1 2022/2023 シーズン スキー場内および管理区域外での死亡事故一覧表 (2023年3月31日現在)

2022-2023シーズン 死亡事故 (ゲレンデ内)

2023.04.10

(1) 地区別

地区 項目	新潟県		長野県		栃木県								合計		備考
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	
スキーヤー			4	4	1	1							5	5	
スノーボーダー	1	1											1	1	
チェアスキー													0	0	
その他 (スノーモビル)													0	0	
計	1	1	4	4	1	1							6	6	

(2) スキーヤー

No.	性別	年齢	状況	事故状況	備考
1	男	76	死亡	1/13 八千穂高原スキー場：上級者用コブ専門コースのコース外で立木に衝突した。(ヘルメット着用)	
2	男	71	死亡	1/19 ハンターマウンテン塩原：上級コースでスノーボードの女性と衝突した。(スピードの出し過ぎか)	
3	男	52	死亡	1/28 野沢温泉スキー場：立入禁止区域の山林で雪に埋もれて窒息死と思われる(滑走中のスキーヤーが発見)	奈良県大和郡山市在住
4	男	77	死亡	2/17 湯の丸スキー場：ゲレンデで心肺停止状態で倒れていた。	
5	男	51	死亡	3/27 つがいけマウンテンリゾート：コース脇の立木に衝突	

(3) スノーボーダー

No.	性別	年齢	状況	事故状況	備考
1	女	19	死亡	12/25 上越国際スキー場：ボーダーが自己転倒	

(4) その他

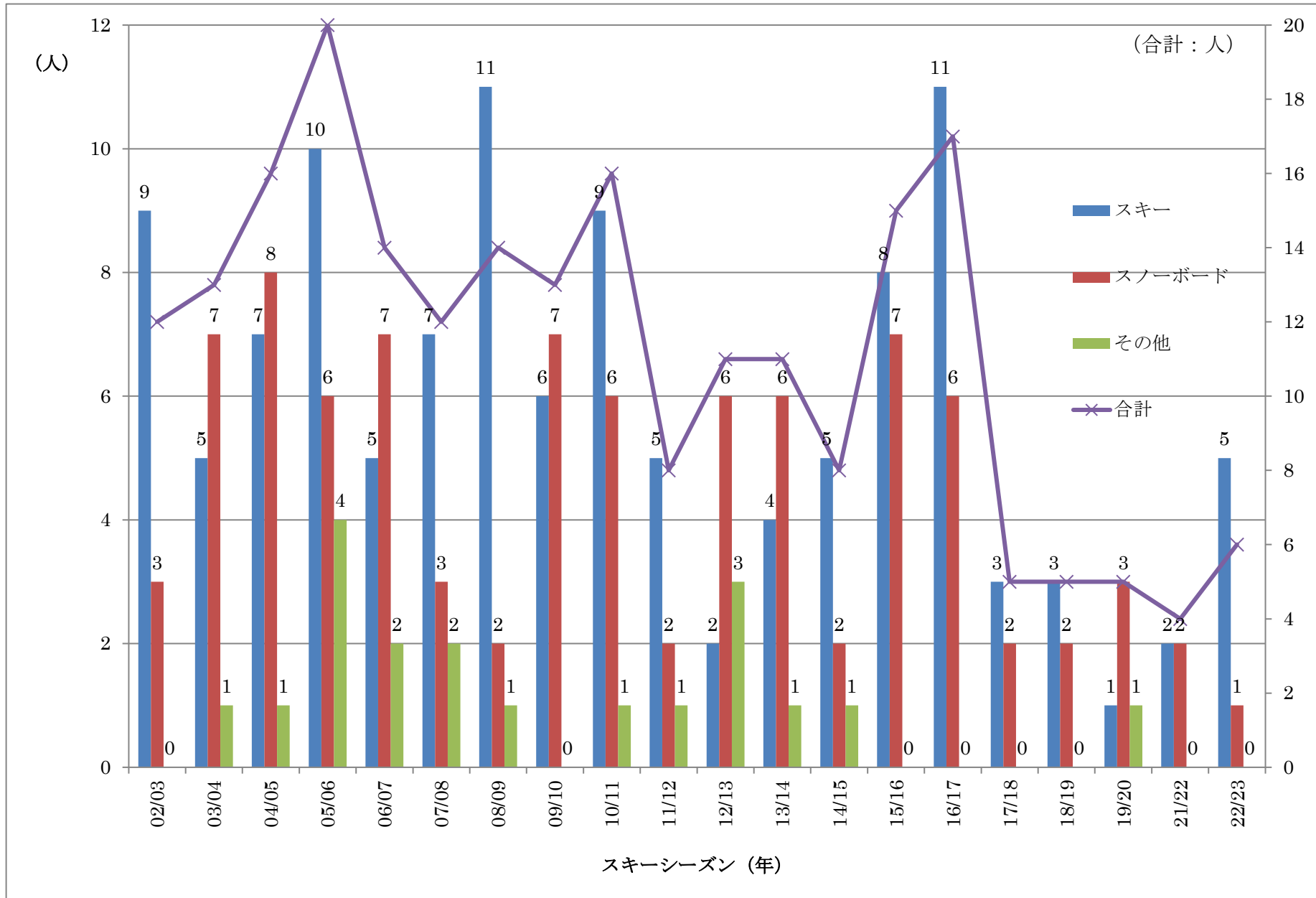
No.	性別	年齢	状況	事故状況	備考
1					

(4) 死亡者の内訳及び原因

項目	性別			死亡までの日数			死亡原因							備考		
	男性	女性	計	当日	翌日	2日以降	転倒	お客同士 衝突	新雪に頭 部を埋没	コース外					スノーモビル 転倒下敷き	合計
										雪崩	悪天候	立木他に衝突	沢に転落			
スキーヤー	5			5			4	1								
スノーボーダー		1				1	1									
コース外																
その他 (圧雪車)																
計																
遭難 (捜索打ち切り)																



資料2 過去20年間のスノースポーツ死亡者数推移



スキー場名 \_\_\_\_\_

2023年2月スキー場傷害調査用紙

No. S・B -

① 負傷日時	2023年 月 日 ( ) 時 分 (24時制で記入してください)		② 天候 ① 晴 ② 曇 ③ 雪 ④ 雨 ⑤ その他	⑤ 用具	スキー	① アルペンスキー ② スキーボード (100cm未満) ③ テレマークスキー ④ クロスカントリースキー ⑤ その他スキー ( )		
	③ 負傷者	ふりがな 氏名			ボード	⑥ フリースタイルスノーボード ⑦ アルペンスノーボード ⑧ その他のスノーボード		
① 男 ② 女		年齢 ( ) 歳	ソリ		⑨ 子供用ソリ ⑩ 腰掛けソリ ⑪ 立ち乗りソリ ⑫ その他のソリ ( )			
外国人の場合 国名: ( )		その他	⑬ 具体的に ( )					
④ 住所	(〒 - - ) 都道府県		⑥ 受傷場所		① 緩斜面 ( ~10°) ④ ワンメイク ⑦ リフト乗り場 ② 中斜面 (10~20°) ⑤ ハーフパイプ ⑧ リフト乗車中 ③ 急斜面 (20°以上) ⑥ ウェーブ ⑨ リフト降り場 ⑩ その他 ( ) ⑪ スキー場エリア外			
TEL - -								
⑦ 受傷原因	自分で転倒		人と衝突	人以外と衝突	その他			
	① バランスを崩して ② 転倒・滑落 ③ ジャンプの失敗 ④ トリックの失敗 ⑤ 逆エッジ転倒 ⑥ その他 ( )	⑦ スキーヤーと衝突 ⑧ ボーダーと衝突 ⑨ その他の人 ( )	⑩ 立木 ⑪ 岩・石 ⑫ ネット ⑬ リフト支柱 ⑭ 看板・標識 ⑮ その他 ( )	⑯ 具体的に記入 ( ) ⑰ 原因不明				
⑧ 傷害の部位と種類	傷害の部位と種類を下の表より選び番号で記入して下さい。 ※複数のケガの場合は、傷害の重い順に記入して下さい。				⑩ 傷害程度 ① 軽傷→さほど必要なし ② 中等傷→必要あり ③ 重症→緊急に必要 ④ 死亡	⑪ 頭を強く打った疑い ① 有 ② 無	⑫ ヘルメットの着用 ① 有 ② 無	
	傷害重傷順に記入	1番	2番	3番				4番
	傷害の部位	(部位番号は1枠1ヶ所)						
	左・右・該当無	左右無	左右無	左右無	左右無			
傷害の種類								
⑨ 部位	① 頭 ② 顔 ③ 首 ④ 胸 ⑤ 背中 ⑥ 腹 ⑦ 腰 ⑧ 臀部 ⑨ 股間 ⑩ 肩 ⑪ 上腕 ⑫ 肘 ⑬ 前腕 ⑭ 手首 ⑮ 手部 ⑯ 手指 ⑰ 大腿 ⑱ 膝 ⑲ 下腿 ⑳ 足首 ㉑ 足部 ㉒ 足指 ㉓ その他 ( )	⑨ ケガの部位に×印をつけて下さい 	⑬ 行動 <プライベート> ① 自由滑走中 ② 学校授業・行事中 ③ 修学旅行・体験学習中 <講習中> ④ 公認スキー学校・スクール等 ⑤ その他の講習中 (ケガをしたのは、① 生徒 ② 指導者 ③ アシスタント) <競技中> ⑥ ボール練習中 ⑦ 大会・競技出場中 <その他> ⑧ 具体的に ( )	⑭ 雪面状況 ① 停止中 ② ゆっくり ③ ふつう ④ 速い ⑤ その他 ( ) ① スムース(圧雪) ② ラフ(不整備) ③ コブ ④ 深雪 ⑤ その他 ( )	⑮ 雪質 ① 乾雪 ② 湿雪 ③ アイスバーン ④ ザラメ雪 ⑤ その他 ( )			
	① 捻挫(靭帯損傷を含む) ② 骨折 ③ 打撲 ④ 切創(きりきざず・すりきざず) ⑤ 脱臼 ⑥ その他 ( )							
備考	⑰ 衝突の相手 ① 確認(している場合は下記を記入してください) ② 不明 氏名 _____ 性別(男・女) 住所 _____ TEL - -							
(以下は救護関係者が方が記入してください)								
搬送方法	⑱ 事故現場→救護室・駐車場 ① アキヤ ② スノーボード ③ スノーモービル ④ 自分で ⑤ その他		⑲ 救急処置後の行動 ① 病院へ(病院名: _____) ② その他 ( )					
	⑳ スキー場→病院: ① 救急車 ② スキー場関係の車 ③ 負傷者関係の車 ④ ヘリコプター ⑤ その他		㉑ 飲酒: ① 有 ② 無					
搬送者氏名	処置者氏名	記録者氏名	記録 2023年 月 日					

※ 該当する番号に○印、✓印または文字・数字を記入してください。  
 ※ 右上のNo.S・Bは、スキーヤー(S)・スノーボーダー(B)に分けて各々1から番号を付けてください。  
 ※ この調査用紙は全国スキー安全対策協議会のスキー場傷害報告書作成以外の目的には使用いたしません。  
 ※ 負傷者および衝突の相手の氏名・住所は複写されません。

# 資料4 全国統一スキー場標識及び標示マーク等色刷一覧表

全国スキー安全対策協議会

<p><b>A 禁止標識</b> 危険な事態を避けることを目的とした標識で、ある特定の行為を禁止するもの。</p> <p>禁止の基本様式 中央に黒い図記号(又は字句)</p> <p>① 立入禁止 ② 歩行禁止 ③ スノーモビル等禁止 ④ スキー滑走禁止 ⑤ 講習禁止 ⑥ ポール禁止 ⑦ スノーボード禁止 ⑧ 飛び降り禁止 ⑨ 搬器を揺らすな (⑧、⑨はリフト標識に使用される)</p>	<p><b>B 注意標識</b> 注意すべき状況を知らせる為の標識で、警戒して慎重な行動をとるよう求めるもの。</p> <p>注意の基本様式 中央に黒い図記号(又は字句)</p> <p>① 危険・注意せよ ② 注意してユックリ行け ③ 凸凹あり ④ 整備車両に注意せよ ⑤ ガケあり ⑥ 右に(左に)合流する ⑦ 分かれる ⑧ じくざぐコースとなる ⑨ 左(右)急カーブとなる ⑩ せまくなる ⑪ 橋あり ⑫ 急斜面となる (斜度数字の有無は選択とする) ⑬ 林間の下りとなる ⑭ 降りる準備をせよ ⑮ 降りたら直進せよ(A) ⑯ 降りたら直進せよ(B) (⑭、⑮、⑯はリフト標識に使用される)</p>	<p><b>D 注意旗</b> 避けるべき危険の有ることをポール・張繩等に標示し、接近や進入等を制止するもの。</p>
<p><b>E 救護関係の標示マーク</b> 救護施設・救急連絡所・バトロール員等を使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、案内図等で単色標示する場合は、外形を円か四角かで区別する。</p> <p>① バトロール バトロール連絡所 ② 救急診療所</p>		
<p><b>F コースの難かしさを表わす色と形</b> 指路標や案内図に用い、コースを選ぶときにヒントを与えることでスキーヤーの安全を図るもの。通常、色と形を併用した標示を基本とする。但し、状況に応じて色のみを用いて表す方法と、形のみを用いて表す方法と、その何れの使用も許される。</p> <p>① 上級コース ② 中級コース ③ 初級コース</p>		
<p><b>C 指示標識</b> 安全の確保を目的に秩序の維持を図る標識で、ある特定の行為の許容やそのルート・区域等の指定を示すもの。</p> <p>指示の基本様式 中央に白い図記号(又は字句)</p> <p>① 講習よし 講習指定区域 ② ポールよし ポール指定区域 ③ 歩行よし 歩行者指定通路 ④ スノーボードよし スノーボード指定区域</p>		

1. 理解しやすくするために、標識に簡潔な字句を加えることが許される。その際、標識の板面内に記入する方法と、補助板に記入して添える方法とがある。  
2. 状況により、標識の板面中央に記載する図記号を、簡潔な字句に代えることが許される。

(平成3年7月改訂版)

2022/2023 シーズン スキー場傷害報告書  
2023(令和5)年6月発行

発行所 全国スキー安全対策協議会

《事務局》

〒111-0056

東京都台東区小島2丁目18番15号

新御徒町妙見屋ビル3階

一般財団法人 日本鋼索交通協会内

TEL 03-3866-3163

FAX 03-3866-3164

<http://www.nikokyo.or.jp/pages/36/>

e-mail [jfta@nikokyo.or.jp](mailto:jfta@nikokyo.or.jp)

(無断転載禁止)